

消 防 年 報

令和 6 年版



有田市消防本部

令和 7 年刊行

有田市市民憲章

私たちは、美しくめぐみ豊かな自然にはぐくまれ、歴史と伝統に輝くふるさと有田市をかぎりなく愛し、真実を求め平和を願い、未来に向けて生々発展する希望のまちづくりを期し、ここにこの憲章を定めます。

- 一 自然を愛し、人を大切にするところ豊かな市民にならしましょう。
- 一 心身をきたえ、健やかで生きがいのある生活をきずきましょう。
- 一 家庭や地域の環境をととのえ、未来にはばたくたくましい青少年を育てましょう。
- 一 とともに学び、文化を高め、うるおいのあるまちづくりをめざしましょう。
- 一 伝統と創造を重んじ、英知を集め、活力あるまちづくりにつとめましょう。

も く じ

有田市について	1
有田市消防のあゆみ	2～14

総 務 関 係

1. 消防本部(署)の組織	15
2. 歴代消防長	16
3. 消防本部の事務分掌	17～18
4. 消防班及び係の事務分掌	19
5. 消防庁舎等の状況	20
6. 階級別、年令別消防吏員数	21
7. 市予算と消防費	21
8. 職員の特殊技能等資格取得状況	22
9. 婦人防火クラブ・幼年消防クラブ	23

消 防 団 関 係

1. 消防団の組織	24
2. 歴代消防団長	24
3. 各分団等の人員	24
4. 消防団員の階級と人員	24
5. 消防団員在職年数	25
6. 年齢別・階級別消防団員数	25
7. 施設、車両等	26～28
8. 消防操法大会	29～30
9. 消防団の出動状況	31
10. 年間活動行事	31

警 防 関 係

1. 通信系統図	32
2. 消防無線局状況	33
3. 消防車両等	34
4. 消防水利の現況	35～36
5. 消防用資器材の現況	37～38

予 防 関 係

1. 防火対象物数及び防火管理者選任状況	39
2. 中高層建築物用途別棟数	40
3. 各種申請届出事務処理状況	41
4. 建築同意処理状況	42

危 険 物 関 係

1. 製造所等の許可、完成検査、廃止届及び休止届等の状況表	43
2. 製造所等の指定数量別状況表	44
3. 製造所等の類別状況表	45
4. 容量別屋外タンク貯蔵所の数量表	46

火 災 統 計

1. 過去の主な火災	47
2. 過去5年間の火災統計	48
3. 火災発生状況	48
4. 地域別出火件数と損害額	48
5. 月別火災発生状況	49

6. 曜日別火災発生状況	49
7. 出火時間別火災状況	50
8. 風速別火災状況及び損害額	50
9. 湿度別火災状況及び損害額	51
10. 覚知別出動状況	51
11. 出火原因別件数	51

救 急 救 助 統 計

1. 月別救急状況表	52
2. 救急出動件数の推移	53
3. 地区別出動件数	53
4. 事故種別出動件数	54
5. 現場到着所要時間	54
6. 搬送者の収容所要時間	54
7. 事故種別傷病程度	55
8. 年齢区分別傷病程度	55
9. 覚知別	55
10. 搬送患者住居地状況	56
11. 管内・外搬送人員状況	56
12. 管内医療機関別搬送人員状況	57
13. 転送件数及び転送理由	57
14. ドクターヘリ要請件数	58
15. 救急出動への支援出動件数	58
16. 年別救急講習回数及び参加人数	59
17. 救助活動状況	60
18. 救助人員・出動人員	60

有田市について…

位 置 北緯 34度5分
東経135度8分

面 積 36.83km²

人 口 25,230人 ※外国人を含む
 { 男12,031人
 女13,199人
 (令和6年12月31日現在)

世 帯 数 11,643世帯



有田市は、和歌山県の北西部、県庁の所在地である和歌山市から南へ約25キロのところ、有田川の河口近くに位置し、海、山、川の自然に恵まれたところです。

霊峰高野山を源として紀伊水道に注ぐ有田川は、当地方の母なる川であり、歴史、文化など、互いに深いかかわりを保ちながら発展してきた流域の市・町が有田地方として広域圏を形成し、本市はその中核をなしています。

気候は瀬戸内海気候区、南海気候区との接続地帯に当たり、紀伊水道に面していることから温暖で、積雪はまれです。

主産業は、みかん、魚、その他地場産業の蚊取り線香や作業用手袋の製造などです。昭和29年9月、箕島町、保田村、糸我村、宮原村の1町3村が合併し、有田町となり、その後、昭和31年5月に市制を施行し、有田市になりました。また、昭和37年8月には隣接の初島町と合併し、今日に至っています。

■管内の人口及び世帯数

(令和6年12月31日現在)

	男	女	計	世帯数
初島地区	1,189 人	1,320 人	2,509 人	1,213 世帯
港 地区	962 人	1,098 人	2,060 人	1,029 世帯
箕島地区	1,602 人	1,750 人	3,352 人	1,603 世帯
宮崎地区	2,249 人	2,510 人	4,759 人	2,320 世帯
保田地区	3,022 人	3,270 人	6,292 人	2,763 世帯
糸我地区	720 人	773 人	1,493 人	638 世帯
宮原地区	2,287 人	2,478 人	4,765 人	2,077 世帯
計	12,031 人	13,199 人	25,230 人	11,643 世帯

有田市消防のあゆみ

- | | | |
|-------|-----|---|
| 明治30年 | 8月 | 箕島町に消防組が公認される。 |
| 昭和14年 | 4月 | 警防団令の公布により箕島町、保田村、宮原村、糸我村、椒村の消防組はすべて「警防団」と改組し、消防活動だけでなく防空訓練などにも出動する。 |
| 昭和22年 | 5月 | 消防団令の公布により「消防団」と改まる。その後、同年12月消防組織法、昭和23年7月消防法の公布により運営管理はすべて市町村に移り「自治体消防」の発足となる。 |
| 昭和29年 | 9月 | 箕島町、保田村、宮原村、糸我村の4ヶ町村合併により「有田町消防団」となる。 |
| 昭和31年 | 5月 | 市制施行に伴い、名称が「有田市消防団」となる。
(消防団員定数 420名) |
| 昭和36年 | 3月 | 有田市消防団が日本消防協会長から竿頭綬を授与される。 |
| 昭和37年 | 8月 | 初島町の合併に伴い初島町消防団を統合する。
(消防団員定数 460名) |
| 昭和38年 | 4月 | 消防組織法改正により常備消防設置の政令指定される。 |
| 昭和39年 | 10月 | 常備消防準備室を設置する。 |
| 昭和40年 | 3月 | 常備消防として箕島29番地に、「有田市消防本部」「有田消防署」を開設する。
消防職員18名、消防ポンプ自動車2台、指令車1台。 |
| | 4月 | 消防団の近代化をめざし分団の整理統合(字単位の分団を初島、港、箕島、宮崎、保田、宮原、糸我の7分団とし、460名の団員を260名にすると共に新たに水防活動のみを任務とした「水防員」200名を置く)を行い、機動力強化を目指し1分団1機動(ポンプ自動車1台)1小型(小型動力ポンプ付積載車1台)及び分団器具庫の整備をもちこんだ消防団第1次機構改革を行う。 |
| 昭和40年 | 6月 | 常備消防発足より日々増大する救急要請にこたえ、救急業務暫定措置要領を制定、指令車(ジープ車)を使用し、活動を始める。 |
| 昭和41年 | 9月 | 日本消防協会から救急自動車の配車を受け、本格的な救急業務を開始する。 |
| 昭和42年 | 2月 | 有田市消防団が日本消防協会長から表彰旗を授与される。 |
| 昭和43年 | 4月 | 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(BD-I型)1台 |

- 寄贈され、消防団保田分団に配備する。
- 昭和44年 2月 消防ポンプ自動車（BS-I型）1台整備、消防団宮原分団に配備する。
- 3月 有田市消防団が和歌山県知事から竿頭綬を授与される。
- 10月 消防団第2次機構改革を行う。
（消防団員が200名となる。）
- 11月 消防ポンプ自動車（BS-II型2台、BS-I型1台）3台整備、消防団港、箕島、宮崎各分団に配備する。
- 昭和45年 3月 有田市消防本部、有田市消防団が消防庁長官から竿頭綬を授与される。
- 4月 消防職員の定数を改正し21名とする。
- 8月 消防団保田分団詰所を新築する。
（鉄筋2階延べ68㎡）
- 昭和46年 6月 古江見37番地に消防庁舎を新築し、移転する。
（鉄筋2階延べ546㎡）
- 12月 消防ポンプ自動車（BS-I型）1台整備、消防団系我分団に配備する。
- 昭和48年 2月 消防団系我分団詰所を新築する。
（鉄筋2階延べ59㎡）
- 6月 消防団宮崎分団器具庫を新築する。
（鉄骨平家建20㎡）
- 7月 消防職員の定数を改正し25名とする。
- 昭和49年 3月 消防職員の定数を改正し消防吏員27名、一般職員1名計28名とする。
- 11月 消防団港分団詰所を新築する。
（鉄筋2階延べ70㎡）
- 12月 消防ポンプ自動車（BD-II型）1台整備、消防団初島分団に配備する。
- 昭和50年 3月 消防団保田分団器具庫を新築する。
（鉄骨平家建21㎡）
- 昭和51年 6月 消防団宮崎分団詰所を新築する。（鉄筋2階延べ83㎡）
石油コンビナート等災害防止法が施行され、本市工業専用地域とこれに面した海岸線の一部が和歌山北部臨海南部地区と

		して特別防災区域の指定を受ける。これに基づき化学消防力の大巾な増強計画（高所放水車、大型化学車、泡原液搬送車の石油コンビナート３点セット整備計画）を樹立する。
	８月	第６回和歌山県消防ポンプ操法大会（小型ポンプの部）で消防団保田分団が優勝する。
	１０月	和歌山県代表として第５回全国消防ポンプ操法大会に出場する。
	１１月	消防友の会の準備委員会を発足する。
昭和５２年	３月	消防団箕島分団詰所を新築する。 （鉄筋２階延べ９３㎡）
	４月	消防職員の定数を改正し、消防吏員４１名、一般職員１名計４２名とする。 消防友の会が正式に発足する。
昭和５３年	３月	有田市消防本部、有田市消防団が消防庁長官から表彰旗を授与される。 大型高所放水車（３０ｍ級はしご ３,１５０ Ｌ / 分）を整備、有田市に配備する。
	６月	第７回県下消防救助技術大会（水上の部人命救助）に出場し優勝する。
	７月	和歌山県代表として、第７回東近畿支部消防救助技術大会に出場し優勝する。
	８月	東近畿支部代表として第７回全国消防救助技術大会に出場し準優勝する。
昭和５４年	２月	大型化学消防車（３,５５０ Ｌ / 分）と泡原液搬送車（４,０００ Ｌ）を整備、有田市に配備する。
昭和５５年	３月	消防庁舎を３階に増築し、７３７㎡とする。 消防団系我分団詰所を増築し、９１㎡とする。
	６月	港町８３９番地に有田消防署化学基地を新築し、業務を開始する。（鉄骨２階４８２㎡） 消防職員１０人、三点セット１セット、消防ポンプ自動車１台、指令車１台。
	７月	消防団保田分団詰所を増築し、９５㎡とする。
昭和５６年	１２月	消防団１分団２機動配備の増強計画を策定する。

- 昭和５７年 ３月 和歌山県事業として有田消防署化学基地に泡原液貯蔵タンク
３５ＫＬを設置する。
- 消防団宮原分団詰所を新築する。
(鉄骨２階延べ１４４㎡)
- ５月 救急医療情報システムを導入する。
- 昭和５８年 ３月 消防通信指令室を設置（鉄筋平家建１２㎡）
一斉指令装置の整備を行い運用開始する。
- 消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）３台整備、消防団宮崎、保
田、宮原各分団に配備する。
- １０月 保田地区に婦人防火クラブが結成される。
- １２月 初島地区に婦人防火クラブが結成される。
- 消防ポンプ自動車（ＢＤ－Ⅰ型）４台整備、消防団初島、
港、箕島、糸我各分団に配備し、２機動計画を完了する。
- 昭和５９年 ３月 化学消防ポンプ自動車（Ⅰ型）を整備、有田消防署に配備す
る。
- 昭和６０年 ２月 消防団箕島分団器具庫を新築する。
(鉄骨平家建２１㎡)
- ３月 防災広報車（２７人乗り）を整備、有田消防署化学基地に配
備する。
- ９月 ぶっとく幼稚園に幼年消防クラブが結成される。
- １１月 初島幼稚園に幼年消防クラブが結成される。
- 昭和６１年 ３月 有田消防署化学基地に車庫を新築する。
(鉄骨平家建１０４㎡)
- １０月 消防法の改正により救助隊の編成が必要となる。
- １２月 消防職員の定数を改正し、消防吏員４３名、一般職員１名計
４４名とする。
- 昭和６２年 ２月 救急自動車（２Ｂ型）を整備、有田消防署に配備する。
- ９月 救助隊の編成に伴い、職員１名を消防大学校（救助科）に派
遣する。
- 箕島、糸我地区に婦人防火クラブが結成される。
- １０月 港、宮崎地区に婦人防火クラブが結成される。
- １２月 有田消防署化学基地に救助隊（兼務）を編成する。

		消防団系我分団器具庫を新築する。 (鉄骨平家建21m ²)
昭和63年	1月	救助工作車(Ⅱ型)を整備、有田消防署化学基地に配備する。
	3月	有田市消防友の会が自治体消防40周年記念大会において日本消防協会長から特別表彰を授与される。 和歌山県農協共済から救急自動車(2B型)1台寄贈され、有田消防署化学基地に配備する。
	7月	宮原地区に婦人防火クラブが結成される。 (市全地区に婦人防火クラブが結成された。)
	10月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車(BD-I型)1台寄贈され、有田消防署に配備する。
	11月	可搬式小型動力ポンプ付積載車(軽四輪)を整備、有田消防署に配備する。
平成元年	6月	聴覚障害者の緊急通報にも対応出来るファクシミリを設置する。
	9月	東燃株式会社より消防連絡車(スバル ドミンゴ)1台寄贈され、有田消防署化学基地に配備する。
平成2年	2月	消防ポンプ自動車(CD-I型)1台整備、消防団保田分団に配備する。 広報車(トヨタ マークⅡ)1台を整備、有田消防署に配備する。
	4月	有田消防署化学基地の名称を有田消防署化学基地出張所に改める。 有田消防署化学基地出張所に潜水隊(兼務)を編成する。
	10月	第14回婦人防火全国大会において、日本防火協会から有田市婦人防火クラブ連絡協議会に防火広報車(トヨタ ハイエース)1台寄贈され、有田消防署に配備する。
平成3年	2月	有田市消防団が日本消防協会から特別表彰「まとい」を授与される。
	3月	南海信用金庫から防火広報車(トヨタ スプリンター)1台寄贈され、有田消防署に配備する。 有田消防署化学基地出張所に事務所(鉄骨2階建58m ²)を増築し540m ² とする。

	6月	水難救助用FRP製組立ボート(5人乗り)船外機(15馬力)付を整備、有田消防署化学基地出張所に配備する。
	11月	市内全保育所(初島・港町・箕島・宮崎町・古江見・保田・系我・宮原の8保育所)に幼年消防クラブが結成される。
	12月	消防職員の定数を改正し、消防吏員46名、一般職員1名、計47名とする。
平成 4年	1月	消防ポンプ自動車(CD-I型)1台整備、消防団宮原分団に配備する。
	3月	消防職員の定数を改正し、消防吏員48名、一般職員1名、計49名とする。
	6月	第21回県下消防救助技術会(陸上の部はしご登はん)に出場し、優勝する。
	7月	和歌山県代表として、第21回消防救助技術東近畿地区指導会に出場し、優勝する。
	8月	東近畿地区代表として、第21回全国消防救助技術大会に出場し、上位入賞する。 第14回和歌山県消防ポンプ操法大会が当市で開催され、ポンプ車の部で消防団系我分団が優勝する。
	9月	資材搬送車(2.9tクレーン付)を整備、有田消防署化学基地出張所に配備する。
	10月	消防団保田分団器具庫を新築する。 (鉄骨平屋建21㎡)
	12月	消防ポンプ自動車(CD-I型)1台及び救急自動車(2B型3000ccAT)1台を整備、有田消防署に配備する。
平成 5年	2月	有田市消防団が日本消防協会長から竿頭綬を授与される。
	8月	日本消防協会から指令広報車(日産ADバン)1台寄贈され、有田消防署化学基地出張所に配備する。
	10月	軽四広報車(ダイハツアトレー)1台を整備、有田消防署に配備する。 有田消防署化学基地出張所の敷地を整備する。
	12月	消防ポンプ自動車(CD-I型)1台整備、消防団宮崎分団に配備する。
平成 6年	3月	財団法人日本損害保険協会から高規格救急車(トヨタ)1台寄贈され、有田消防署に配備する。

- 4 月 救急救命士（1 名）合格する。
- 6 月 高規格救急自動車の運用を開始する。
- 9 月 消防ポンプ自動車（CD－I 型）1 台整備、消防団港分団に配備する。
- 1 2 月 消防用携帯無線機（1W）2 2 基整備、消防団に配備する。
- 平成 7 年 1 月 職員 1 名を消防大学校（警防科）に派遣する。
- 阪神淡路大震災に係る緊急消防援助隊を神戸市に派遣する。
- 3 月 消防署の名称を有田市消防署に変更する。
- 4 月 消防職員の定数を改正し、消防吏員 5 1 名とする。
- 消防本部機構改革により、総務課、予防課を設ける。
- 救急救命士（1 名）合格する。
- 9 月 消防ポンプ自動車（CD－I 型）1 台整備、消防団箕島分団に配備する。
- 職員 1 名を消防大学校（予防科）に派遣する。
- 1 0 月 消防本部発足 3 0 周年を記念し、消防フェスティバルを有田川左岸河川敷広場で開催する。
- 1 2 月 可搬式小型動力ポンプ 7 台を整備、消防団全分団に配備する。
- 平成 8 年 4 月 救急救命士（1 名）合格する。
- 1 0 月 救急業務高度化の運用を開始する。
- 可搬式小型動力ポンプ積載車（軽四輪）3 台整備、消防団箕島、宮原、糸我分団に配備する。
- 消防ポンプ自動車（CD－I 型）1 台整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。
- 1 2 月 消防ポンプ自動車（CD－I 型）1 台整備、消防団糸我分団に配備する。
- 平成 9 年 4 月 救急救命士（1 名）合格する。
- 1 0 月 可搬式小型動力ポンプ付積載車（軽四輪）4 台整備、消防団初島、港、宮崎、保田分団に配備する。
- 消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。
- 1 2 月 消防ポンプ自動車（CD－I 型）1 台整備、消防団初島分団に配備する。

		消防団港分団器具庫を新築する。 (鉄骨平屋建 21m ²)
平成10年	8月	(財)日本消防協会より軽可搬式消防ポンプ付軽四積載車1台寄贈され、有田市消防署化学基地出張所に配備する。
	12月	消防緊急通信指令装置更新に伴い指令室を改築する。
平成11年	3月	耐震性貯水槽(飲料水兼用60t)1基を箕島中学校庭内に設置する。
	4月	消防緊急通信指令装置(I型)を更新し運用を開始する。
	8月	(財)日本消防協会より可搬式小型動力ポンプ付積載車(普通車)1台寄贈され、有田市消防署化学基地出張所に配備する。
	10月	消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。 有田市婦人消防隊が第14回全国婦人消防操法大会(横浜市)に出場する。
平成12年	1月	土木部から水防員組織の事務移管を受ける。
	4月	救急救命士(1名)合格する。
	5月	全国消防長会危険物委員会を開催する。
	10月	消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。
平成13年	2月	高規格救急車を整備、有田市消防署に配備する。
	3月	耐震性貯水槽(飲料水兼用60t)1基を宮原小学校庭内に設置する。
	8月	水防員制度廃止に伴い、消防団員定数200名を250名とする。
	10月	消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。
平成14年	1月	大型化学消防車と泡原液搬送車(4,000L)を更新整備 有田市消防署化学基地出張所に配備する。
	4月	職員1名を和歌山県防災航空隊に派遣する。 職員1名を消防大学校(救助科)に派遣する。
	10月	消防フェスティバルを有田市民会館及びその周辺で開催する。
平成15年	3月	化学消防ポンプ自動車(I型)を更新整備、有田市消防署に配備する。 有田市消防団が和歌山県知事から表彰旗を授与される。

- 4 月 消防本部組織「予防課」を「警防課」に改める。
救急救命士（1 名）合格する。
- 7 月 消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。
（水害 50 周年有田市総合防災訓練に併せて開催）
- 平成 16 年 1 月 救助工作車（Ⅱ型）を更新整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。
- 2 月 消防団宮崎分団器具庫を新築する。
（鉄骨平屋建 21 ㎡）
- 3 月 有田市消防団が消防庁長官から消防団地域活動表彰を授与される。
有田市消防団が（財）和歌山県消防協会長から表彰旗を授与される。
- 4 月 救急救命士（1 名）合格する。
- 10 月 消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。
（交通安全フェアと同日開催）
- 平成 17 年 2 月 指令車（トヨタ サーフ）を整備、有田市消防署に配備する。
- 4 月 職員 1 名を和歌山県防災航空隊に派遣する。
救急救命士（1 名）合格する。
- 10 月 消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。
宮原水防倉庫を新築する。
（鉄骨平屋建 25 ㎡）
- 平成 18 年 2 月 軽バン広報車（三菱 ミニキャブ）を更新整備、有田市消防署に配備する。
防火号（トヨタ ノア）を更新整備、有田市消防署に配備する。
- 4 月 救急救命士（1 名）合格する。
- 8 月 職員 1 名を消防大学校（予防科）に派遣する。
- 10 月 消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。
- 平成 19 年 2 月 消防署高規格救急車を更新整備、有田市消防署に配備する。
- 4 月 救急救命士（2 名）合格する。
- 10 月 消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。

	12月	消防用携帯無線機（5W）11基整備、消防団に配備する。
平成20年	3月	消防ポンプ自動車（CD-I型）更新整備、有田市消防署に配備する。 可搬式小型動力ポンプ付積載車（軽四輪）更新整備、有田市消防署に配備する。
	4月	救急救命士（1名）合格する。
平成21年	2月	有田市消防団が日本消防協会長から竿頭綬を授与される。
	4月	救急救命士（1名）合格する。
	10月	消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。
平成22年	3月	軽四広報車（日産 モコ）更新整備、有田市消防署に配備する。
平成23年	2月	広報車（日産 キャラバン）更新整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。
	3月	東日本大震災に係る緊急消防援助隊を宮城県に派遣する。
	4月	救急救命士（1名）合格する。
	9月	紀伊半島大水害に係る緊急消防援助隊を新宮市に派遣する。
	10月	消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドで開催する。
平成24年	2月	軽四トラック（三菱 ミニキャブ）更新整備、有田市消防署化学基地出張所に配備する。 有田市消防団が日本消防協会長から表彰旗を授与される。
	3月	消防署高規格救急車を更新整備、有田市消防署に配備する。
	7月	新消防庁舎建築工事を着工する。
	8月	第24回和歌山県消防ポンプ操法大会（小型ポンプの部）で消防団宮原分団が優勝する。
	10月	消防フェスティバルを有田川右岸河川敷広場で開催する。 宮原分団が和歌山県代表として第23回全国消防ポンプ操法大会に出場する。
平成25年	4月	救急救命士（1名）合格する。 有田市消防団が和歌山県知事から竿頭綬を授与される。
	6月	職員1名を消防大学校（警防科）に派遣する。
平成26年	3月	消防庁舎新築に伴い、消防緊急通信指令装置を更新する。
	4月	箕島47番地に消防庁舎を新築し、移転する。

(鉄筋コンクリート5階建延べ3046㎡)

消防職員の定数を改正し、消防吏員48名とする。

職員1名を和歌山県防災航空隊に派遣する。

職員1名を和歌山県消防救急デジタル無線整備推進協議会に派遣する。

8月 第25回和歌山県消防ポンプ操法大会(ポンプ車の部)で消防団初島分団が優勝する。

10月 消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドで開催する。

11月 初島分団が和歌山県代表として第24回全国消防ポンプ操法大会に出場する。

平成27年 3月 小型動力ポンプ付多機能型積載車を7台整備、消防団全分団に配備する。

有田市消防団が和歌山県知事から竿頭綬を授与される。

10月 消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドで開催する。

平成28年 10月 消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドで開催する。

平成29年 2月 消防署高規格救急車を更新整備、有田市消防署に配備する。

4月 救急救命士(1名)合格する。

職員1名を和歌山県防災航空隊に派遣する。

平成30年 2月 可搬式小型動力ポンプ付積載車(軽四輪)4台更新整備、消防団 初島、港、宮崎、保田分団に配備する。

3月 大型高所放水車(25m級はしご 3,000 L /分)を更新整備、有田市消防署に配備する。

7月 西日本豪雨災害に係る緊急消防援助隊を広島県に派遣する。

10月 消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドで開催する。

平成31年 1月 公益財団法人日本消防協会から消防団に消防団防災学習車・災害活動車両(トヨタ ハイエース)1台寄贈され、有田市消防署に配備する。

2月 可搬式小型動力ポンプ付積載車(軽四輪)3台更新整備、消防団 箕島、糸我、宮原分団に配備する。

可搬式小型動力ポンプ1台(原液搬送車積載)を更新整備する。

令和元年	8月	消防用携帯無線機（５Ｗ）２０基整備、消防団に配備する。
	10月	消防フェスティバルを箕島中学校グラウンドで開催する。
令和２年	1月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）更新整備、糸我分団に配備する。
	2月	資材搬送車を更新整備、有田市消防署に配備する。
	3月	有田市消防団が和歌山県知事から竿頭綬を授与される。 救急救命士（１名）合格する。
	4月	職員１名を和歌山県防災航空隊に派遣する。
	6月	職員１名を消防大学校（危険物科）に派遣する。
令和３年	9月	コミュニティー助成事業を活用し、Ｄ－１級軽可搬消防ポンプを配備する。
令和４年	2月	消防署高規格救急車を更新整備、有田市消防署に配備する。
	4月	救急救命士（１名）合格する。
	6月	職員１名を消防大学校（総合教育幹部科）に派遣する。
	7月	第２９回和歌山県消防操法大会（ポンプ車の部）で消防団糸我分団が優勝する。
令和５年	2月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）更新整備、有田市消防署に配備する。
	3月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）が総務省から貸与され、保田分団に配備する。 消防友の会が解散する。
	4月	救急救命士（１名）合格する。 職員１名を和歌山県防災航空隊に派遣する。
	10月	消防フェスティバルを有田市消防本部、市民会館及びその周辺で開催する。 有田市女性消防隊が和歌山県代表として第２５回全国女性消防操法大会に出場する。
令和６年	1月	能登半島地震に係る緊急消防援助隊を石川県に派遣する。
	3月	消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型）更新整備、宮原分団に配備する。

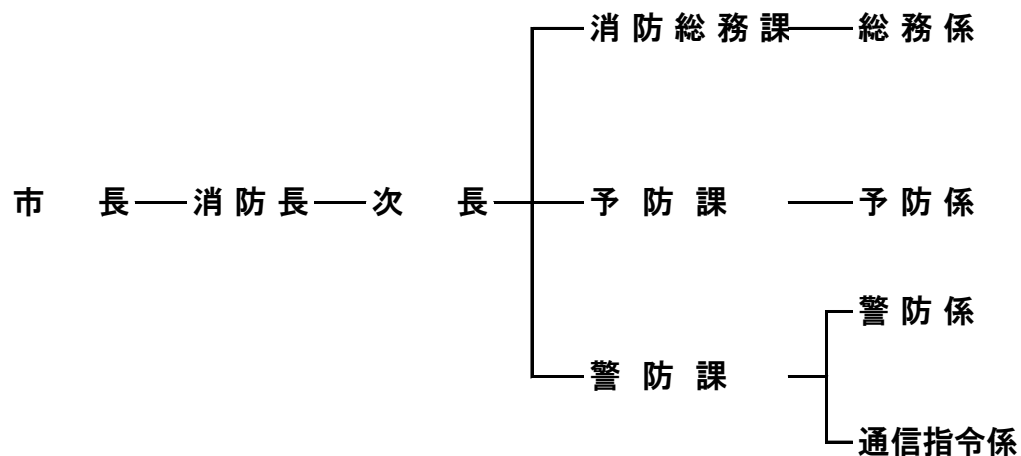
- 4 月 救急救命士（1 名）合格する。
- 1 2 月 和歌山広域消防指令センター参入に伴い、消防通信指令業務
の仮運用を開始する。

総務関係

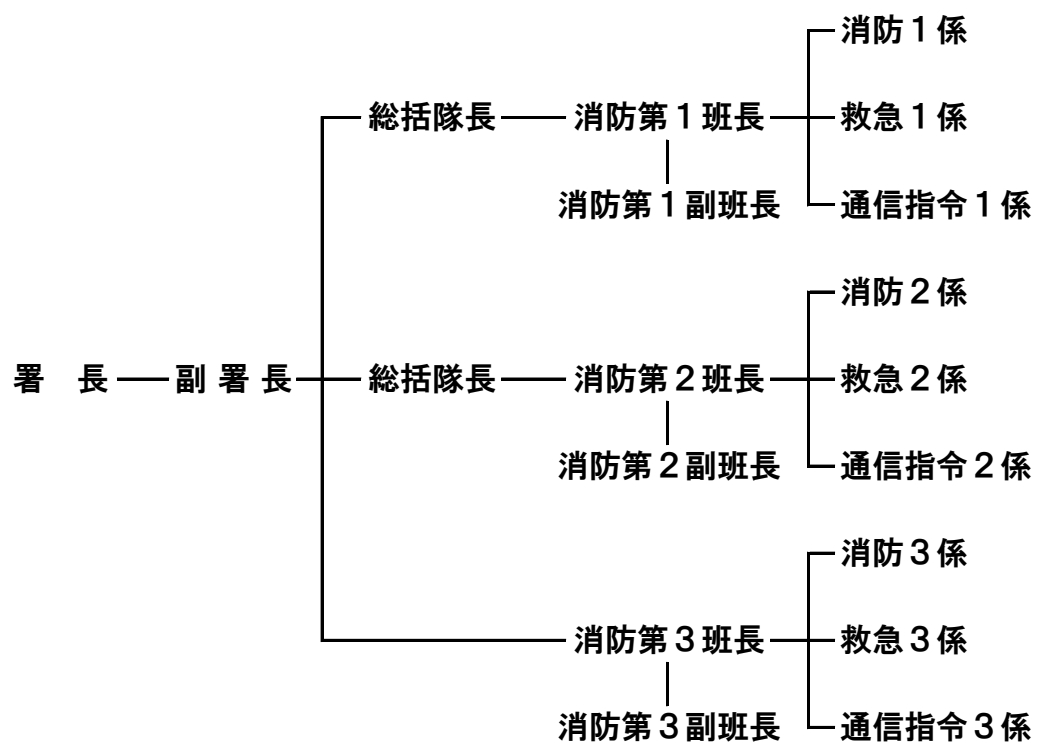
1. 消防本部(署)の組織	15
2. 歴代消防長	16
3. 消防本部の事務分掌	17～18
4. 消防班及び係の事務分掌	19
5. 消防庁舎等の状況	20
6. 階級別、年齢別消防吏員数	21
7. 市予算と消防費	21
8. 職員の特殊技能等資格取得状況	22
9. 婦人防火クラブ・幼年消防クラブ	23

1. 消防本部（署）の組織

◇ 有田市消防本部



◇ 有田市消防署



2. 歴代消防長

歴 代	氏 名	在 職 期 間	備 考
初代	大 浦 静 致	S 4 0 . 3 . 3 0 ~ 4 3 . 7 . 3 1	
2代	楠 本 茂	4 3 . 8 . 1 ~ 4 3 . 1 1 . 2 1	
3代	大 浦 静 致	4 3 . 1 1 . 2 2 ~ 4 4 . 3 . 3 1	
4代	楠 本 茂	4 4 . 4 . 1 ~ 4 4 . 6 . 8	
5代	大 浦 静 致	4 4 . 6 . 9 ~ 4 4 . 6 . 2 3	民生部長兼務
6代	西 中 由 三	4 4 . 6 . 2 4 ~ 4 9 . 9 . 2 7	
7代	柏 木 義 憲	4 9 . 9 . 2 8 ~ 5 1 . 1 . 1 1	
8代	石 井 良 雄	5 1 . 1 . 1 2 ~ 5 3 . 3 . 3 1	
9代	瀧 川 隆 夫	5 3 . 4 . 1 ~ 5 6 . 1 . 1 1	
10代	豆 塚 信 二	5 6 . 1 . 1 2 ~ 5 8 . 5 . 3 1	
11代	江 川 利 彦	5 8 . 6 . 1 ~ H 2 . 3 . 3 1	
12代	上 田 久 男	H 2 . 4 . 1 ~ 4 . 3 . 3 1	
13代	泉 本 茂 信	4 . 4 . 1 ~ 6 . 3 . 3 1	
14代	富 長 保 雄	6 . 4 . 1 ~ 1 0 . 4 . 3 0	
15代	山 野 宏	1 0 . 5 . 1 ~ 1 3 . 1 . 3 1	
16代	宇 治 利 夫	1 3 . 2 . 1 ~ 1 7 . 3 . 3 1	
17代	江 川 俊 三	1 7 . 4 . 1 ~ 2 0 . 3 . 3 1	
18代	谷 口 敏 章	2 0 . 4 . 1 ~ 2 1 . 3 . 3 1	
19代	小 畑 清	2 1 . 4 . 1 ~ 2 2 . 3 . 3 1	
20代	山 田 哲 也	2 2 . 4 . 1 ~ 2 4 . 3 . 3 1	
21代	橋 本 訓 祐	2 4 . 4 . 1 ~ 2 6 . 3 . 3 1	
22代	古 川 友 次	2 6 . 4 . 1 ~ 2 7 . 3 . 3 1	
23代	山 本 崇	2 7 . 4 . 1 ~ 3 1 . 3 . 3 1	
24代	田 邊 隆 義	3 1 . 4 . 1 ~ R 2 . 3 . 3 1	
25代	嶋 田 富 司	R 2 . 4 . 1 ~ 5 . 3 . 3 1	
26代	鎌 田 利 宏	5 . 4 . 1 ~	

3. 消防本部の事務分掌

消防総務課

総務係

- (1) 消防の総合的企画に関する事。
- (2) 諸規定の制定改廃に関する事。
- (3) 儀式及び渉外に関する事。
- (4) 消防統計及び消防広報に関する事。
- (5) 外郭団体に関する事。
- (6) 消防団に関する事。
- (7) 消防職団員等の表彰に関する事。
- (8) 有田市消防団表彰審査委員会に関する事。
- (9) 水防活動に関する事。
- (1 0) 公印の管守及び文書取扱いに関する事。
- (1 1) 人事に関する事。
- (1 2) 予算及び決算に関する事。
- (1 3) 福利厚生に関する事。
- (1 4) 給与に関する事。
- (1 5) 物品の購入、出納、修繕及び保管に関する事。
- (1 6) 研修及び教養に関する事。
- (1 7) 消防組織及び職制に関する事。
- (1 8) 職員の公務災害に関する事。
- (1 9) 職員の定数及び配置に関する事。
- (2 0) 職員の任免、分限、懲戒、服務、その他勤務条件に関する事。
- (2 1) 職員の健康管理及び福利厚生に関する事。
- (2 2) 消防職員委員会に関する事。
- (2 3) 消防庁舎の整備及び保全に関する事。
- (2 4) その他、他課の所管に属さない事。

予防課

予防係

- (1) 火災予防の対策及び広報に関する事。
- (2) 立入検査及び防火指導に関する事。
- (3) 建築物の確認、許可及び認可の同意に関する事。
- (4) 消防用設備等の着工及び設置に関する事。

- (5) 消防用設備等の検査に関すること。
- (6) 火災の原因及び損害の調査に関すること。
- (7) 防火管理に関すること。
- (8) 住宅防火に関すること。
- (9) 婦人防火クラブに関すること。
- (10) 幼年消防クラブに関すること。
- (11) 危険物製造所等の許認可に関すること。
- (12) 危険物製造所等の完成検査等各種検査に関すること。
- (13) 危険物製造所等の立入検査及び防火指導に関すること。
- (14) 危険物取扱者の育成指導に関すること。
- (15) 危険物製造所等の火災の原因及び損害の調査に関すること。
- (16) 石油コンビナート等災害防止法（昭和50年法律第84号）の規制に関すること。
- (17) 液化石油ガス、高圧ガス及び火薬類に関すること。
- (18) その他、予防業務及び危険物の規制に関すること。

警防課

警防係

- (1) 消防計画に関すること。
- (2) 水火災の警戒防ぎょ及び警防対策に関すること。
- (3) 消防訓練に関すること。
- (4) 消防地水利の開発及び保全に関すること。
- (5) 消防機械器具の開発整備に関すること。
- (6) 消防関係機関との協定等に関すること。
- (7) 救急救助対策に関すること。
- (8) 救急機械器具の開発整備に関すること。
- (9) 医療機関との協定連絡に関すること。
- (10) その他、警防・救急・救助業務に関すること。

通信指令係

- (1) 各種出動指令に関すること。
- (2) 災害情報の収集及び伝達に関すること。
- (3) 消防通信の運用に関すること。
- (4) 指令室の整備及び保全に関すること。
- (5) 気象観測に関すること。
- (6) その他通信及び指令業務に関すること。

4. 消防班及び系の事務分掌

消防第1班、消防第2班、消防第3班

- (1) 水火災又は地震等災害の警戒防ぎょに関すること。
- (2) 火災の原因及び損害の調査に関すること。
- (3) 通信業務に関すること。
- (4) その他、消防業務に関すること。

消防1係、消防2係、消防3係

- (1) 警防計画及び警防対策に関すること。
- (2) 消防訓練及び指導に関すること。
- (3) 消防地水利の点検及び保全に関すること。
- (4) 消防機械器具の点検及び保全に関すること。
- (5) 救助業務に関すること。
- (6) 救助訓練に関すること。
- (7) 火災の予防及び広報に関すること。
- (8) 立入検査及び防火指導に関すること。
- (9) 予防関係の諸届に関すること。
- (10) その他、消防業務に関すること。

救急1係、救急2係、救急3係

- (1) 救急業務に関すること。
- (2) 救急訓練及び指導に関すること。
- (3) 救急機械器具の点検及び保全に関すること。
- (4) その他、救急業務に関すること。

通信指令1係、通信指令2係、通信指令3係

- (1) 各種出動指令に関すること。
- (2) 災害情報の収集及び伝達に関すること。
- (3) 指令室の整備及び保全に関すること。
- (4) 気象観測に関すること。
- (5) その他、通信指令業務に関すること。

5. 消防庁舎等の状況

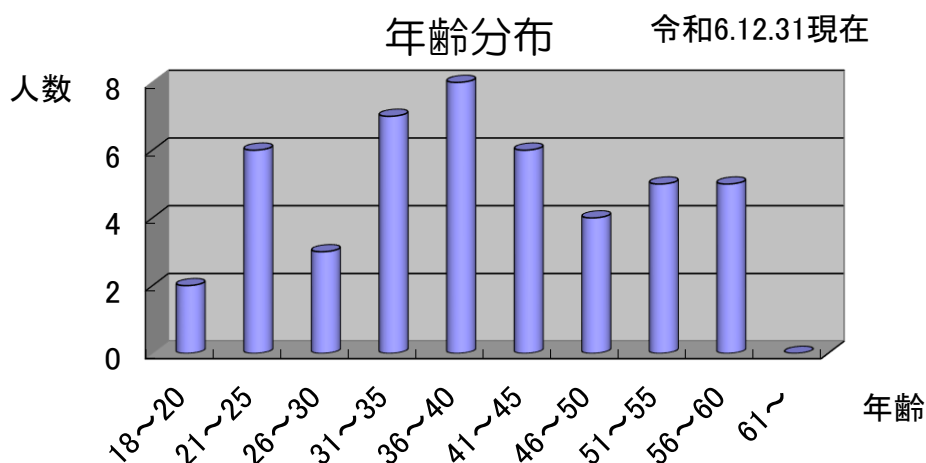


名 称	所 在 地	構 造・規 模	延 面 積
有田市消防本部	有田市箕島47番地	鉄筋コンクリート	3046㎡
有田市消防署		5階建	

6. 階級別、年齢別消防吏員数

(令和6年12月31日現在)

階級 年令	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消 防 士	計
18才 ~ 20才						2	2
21才 ~ 25才						6	6
26才 ~ 30才					3		3
31才 ~ 35才			1	6			7
36才 ~ 40才			8				8
41才 ~ 45才			6				6
46才 ~ 50才			4				4
51才 ~ 55才		3	2				5
56才 ~ 60才	1	4					5
61才 ~							
計	1	7	21	6	3	8	46
平 均 年 令	58	56	43	33	28	22	40



7. 市予算と消防費

(当初予算) (単位; 千円) (過去5年間)

予算 年度	市一般会計 予 算 額	消防費	内 訳				市一般会計 計費消防 費の比率 (%)
			常 備 消防費	消 防 団 費	消 防 施設費	水防費	
R2	16,805,000	471,489	434,271	35,754	1,300	164	2. 8
R3	19,656,000	499,504	461,663	36,064	1,300	477	2. 5
R4	22,637,000	507,766	461,666	40,818	5,113	169	2. 2
R5	21,230,000	568,969	425,999	58,228	84,569	173	2. 7
R6	20,777,000	662,821	427,915	40,028	194,419	459	3. 2

8. 職員の特殊技能等資格取得状況

(令和6年12月31日現在)

種 別 \ 階 級		消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防 士	計
第1種運転免許	大 型 自 動 車	1	7	21	6	3	1	39
	中 型 自 動 車 (準中型自動車を含む)	1	7	21	5	2		36
	普 通 自 動 車						6	6
危険物取扱者	甲 種			2				2
	乙 種	1		10	5			16
特 殊 無 線 技 士			7	21	6	3	8	45
ガス溶断技能講習修了者		1	5	3				9
玉掛技能講習修了者		1	7	20	1			29
救急隊員資格者（標準課程）		1	7	21	6	3	5	43
救急救命士資格者			1	12	2		1	16
救助専科教育修了者		1	6	11				18
小型船舶操縦士（2級）			5	9				14
足場の組立等作業主任者			4					4
潜 水 士			6	15	4	1		26
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者			6	8				14
第1種酸素欠乏危険作業主任者			2	1				3
小型移動式クレーン運転技能特例講習修了者		1	6	20		1		28
予防技術検定			1	10	3			14
ドローン操縦技能			1	1				2

9. 婦人防火クラブ・幼年消防クラブ

(1) 婦人防火クラブ

(令和6年12月31日現在)

名 称	クラブ員数	結 成 年 月 日
有田市婦人防火クラブ 保田支部	24 名	S 5 8 . 1 0 . 2 3
有田市婦人防火クラブ 初島支部	休部中 (H29. 4. 1~)	S 5 8 . 1 2 . 2 8
有田市婦人防火クラブ 箕島支部	27 名	S 6 2 . 9 . 2 6
有田市婦人防火クラブ 系我支部	20 名	S 6 2 . 9 . 2 8
有田市婦人防火クラブ 港 支部	19 名	S 6 2 . 1 0 . 2
有田市婦人防火クラブ 宮崎支部	28 名	S 6 2 . 1 0 . 1 9
有田市婦人防火クラブ 宮原支部	16 名	S 6 3 . 7 . 2
合 計	134 名	

(2) 幼年消防クラブ

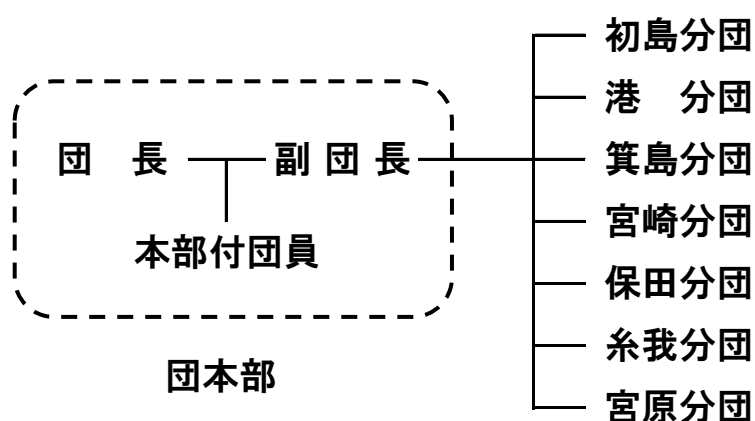
(令和6年12月31日現在)

名 称	クラブ員数	結 成 年 月 日
ぶっとく幼稚園ぶっとく子供会	50 名	S 6 0 . 9 . 1 5
初島幼稚園幼年消防クラブ	20 名	S 6 0 . 1 1 . 1 2
そとはま保育所幼年消防クラブ	40 名	H 2 4 . 4 . 1
宮崎町保育所幼年消防クラブ	12 名	H 3 . 1 1 . 1
古江見保育所幼年消防クラブ	27 名	〃
保田保育所幼年消防クラブ	60 名	〃
宮原保育所幼年消防クラブ	66 名	〃
合 計	275 名	
備 考	そとはま保育所 H24. 4. 1から初島保育所・港町保育所が統合	
	箕島保育所 R3. 3. 31閉所 系我保育所 R5. 3. 31閉所	

消防団関係

1. 消防団の組織	24
2. 歴代消防団長	24
3. 各分団等の人員	24
4. 消防団員の階級と人員	24
5. 消防団員在職年数	25
6. 年齢別・階級別消防団員数	25
7. 施設、車両等	26～28
8. 消防操法大会	29～30
9. 消防団の出動状況	31
10. 年間活動行事	31

1. 消防団の組織



2. 歴代消防団長

歴代	氏名	就任年月日	退職年月日
初代	栗山雪夫	S 3 1. 5. 1	~ S 3 1. 7. 16
2代	西川利治	S 3 1. 7. 17	~ S 3 3. 6. 4
3代	梅本兼太郎	S 3 3. 6. 5	~ S 4 0. 1. 31
4代	田中秀一	S 4 0. 2. 1	~ S 4 2. 5. 14
5代	石井久	S 4 2. 5. 15	~ S 5 4. 5. 18
6代	大森茂樹	S 5 4. 5. 19	~ S 6 2. 11. 9
7代	久田秀雄	S 6 2. 11. 10	~ S 6 3. 7. 16
8代	嶋田浩平	S 6 3. 7. 17	~ H 2 4. 4. 5
9代	桑原清喜	H 2 4. 4. 6	~ R 4. 3. 31
10代	中西義次	R 4. 4. 1	~

3. 各分団等の人員

(令和6年12月31日現在)

	団本部	初島分団	港分団	箕島分団	宮崎分団	保田分団	糸我分団	宮原分団	計
定員	14	38	26	30	31	40	27	44	250
実員	14	34	25	24	31	40	24	44	236

4. 消防団員の階級と人員

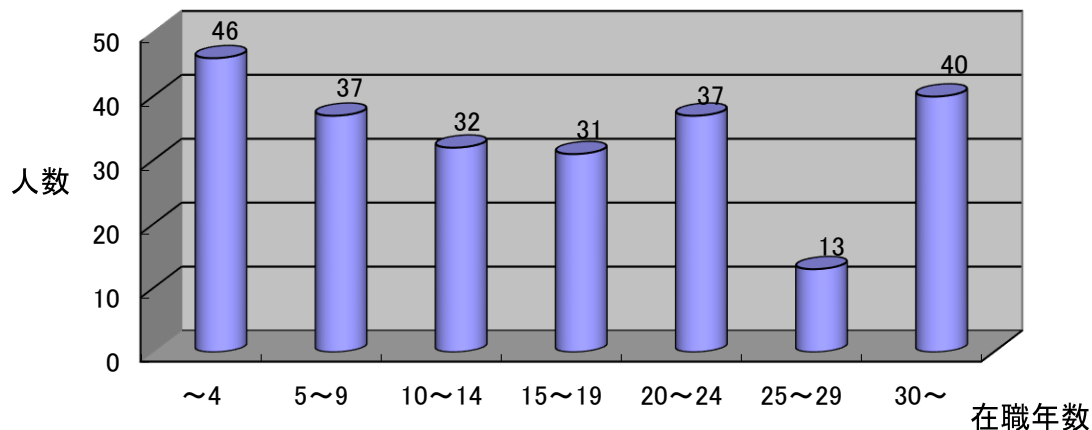
(令和6年12月31日現在)

団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
1	3	7	7	7	23	188	236

5. 消防団員在職年数

在職年数	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満
消防団員	46	37	32	31
	20 年以上 25 年未満	25 年以上 30 年未満	30 年以上	合 計
	37	13	40	236

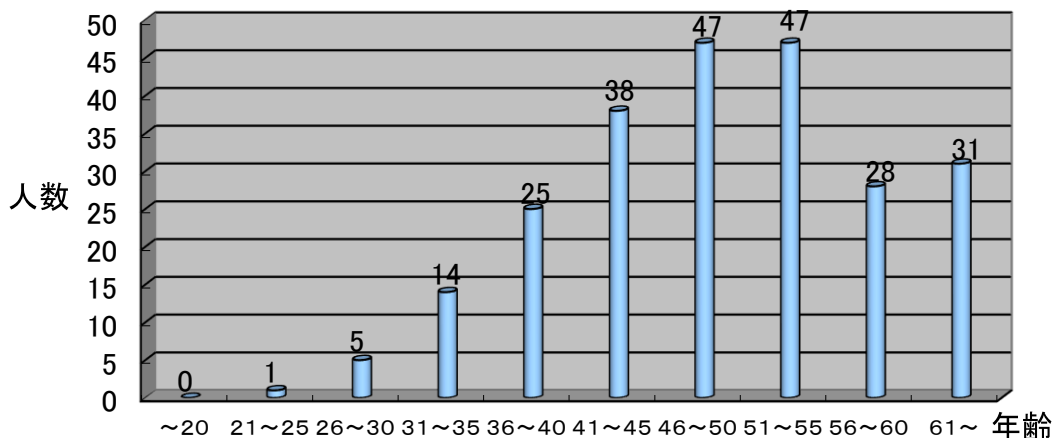
在職年数分布



6. 年齢別・階級別消防団員数

年齢階級	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
~20								0
21~25							1	1
26~30							5	5
31~35							14	14
36~40						1	24	25
41~45						5	33	38
46~50				1		8	38	47
51~55			1	4	2	3	37	47
56~60			1	1	4	4	18	28
61~	1	3	5	1	1	2	18	31
合 計	1	3	7	7	7	23	188	236

年齢分布



7. 施設、車両等

(1) 建 物

名 称	所 在 地	建物面積 (延 ㎡)	構 造
初島分団詰所	初島町里1679番地の1	216	鉄筋コンクリート2階建
港 分団詰所	港町854番地	70	鉄筋コンクリート2階建
港 分団器具庫	港町75番地の1	21	鉄骨平家建
箕島分団詰所	箕島817番地の3	93	鉄筋コンクリート2階建
箕島分団器具庫	新堂772番地	21	鉄骨平家建
宮崎分団詰所	宮崎町2381番地	83	鉄筋コンクリート2階建
宮崎分団器具庫	宮崎町2382番地の4	21	鉄骨平家建
保田分団詰所	辻堂581番地	95	鉄筋コンクリート及び鉄骨2階建
保田分団器具庫	下中島249番地	21	鉄骨平家建
糸我分団詰所	糸我町中番332番地の3	91	鉄筋コンクリート及び鉄骨2階建
糸我分団器具庫	糸我町中番163番地	21	鉄骨平家建
宮原分団詰所	宮原町滝川原513番地の1	144	鉄骨2階建
宮原分団器具庫	宮原町須谷288番地先	23	鉄骨平家建

(2) 消 防 車 両

種 別 \ 所 属	初島分団	港分団	箕島分団	宮崎分団	保田分団	糸我分団	宮原分団	計
ポンプ自動車	1	1	1	1	1	1	1	7
小型動力ポンプ 付 多機能型積載車	1	1	1	1	1	1	1	7
小型動力ポンプ 付 軽四積載車	1	1	1	1	1	1	1	7

(3) 消防団無線 (簡易業務用無線電話装置)

(令和6年12月31日現在)

種別	設置場所			個数
基地局 (据置型無線機)	有田市消防署 通信指令室			1
	有田市消防団 初島分団詰所			1
	有田市消防団 港 分団詰所			1
	有田市消防団 箕島分団詰所			1
	有田市消防団 宮崎分団詰所			1
	有田市消防団 保田分団詰所			1
	有田市消防団 系我分団詰所			1
	有田市消防団 宮原分団詰所			1
移動局 (据置型無線機)	初島分団	初島分団詰所	ポンプ車 CD-1	1
			小型動力ポンプ付 多機能型積載車	1
			軽四積載車	1
	港 分団	港 分団詰所	ポンプ車 CD-1	1
			小型動力ポンプ付 多機能型積載車	1
		港 分団器具庫	軽四積載車	1
	箕島分団	箕島分団詰所	軽四積載車	1
			小型動力ポンプ付 多機能型積載車	1
		箕島分団器具庫	ポンプ車 CD-1	1
	宮崎分団	宮崎分団詰所	ポンプ車 CD-1	1
			小型動力ポンプ付 多機能型積載車	1
		宮崎分団器具庫	軽四積載車	1
	保田分団	保田分団詰所	ポンプ車 CD-1	1
			小型動力ポンプ付 多機能型積載車	1
		保田分団器具庫	軽四積載車	1
	系我分団	系我分団詰所	ポンプ車 CD-1	1
			小型動力ポンプ付 多機能型積載車	1
		系我分団器具庫	軽四積載車	1
	宮原分団	宮原分団詰所	ポンプ車 CD-1	1
			小型動力ポンプ付 多機能型積載車	1
		宮原分団器具庫	軽四積載車	1

移動局 (携帯型無線機)	有田市消防本部	16
	有田市消防団 本部	5
	有田市消防団 初島分団	6
	有田市消防団 港 分団	6
	有田市消防団 箕島分団	6
	有田市消防団 宮崎分団	6
	有田市消防団 保田分団	7
	有田市消防団 糸我分団	6
	有田市消防団 宮原分団	7

8. 消防操法大会

全国消防操法大会

	年 月 日	出場分団	種 目	場 所
第5回	昭和51年10月17日	保田分団	小型ポンプ操法の部	東京消防庁消防学校
第23回	平成24年10月 7日	宮原分団	小型ポンプ操法の部	東京臨海広域防災公園
第24回	平成26年11月 8日	初島分団	ポンプ車操法の部	東京臨海広域防災公園

和歌山県消防操法大会

(過去30回の記録)

回 数	年 月 日	開 催 場 所	出 場 分 団	
			ポンプ車の部	小型ポンプの部
第1回	昭和44年11月16日	白浜町坂田会館	選 抜	選 抜
2回	昭和45年 8月25日	和歌山市木材センター広場	選 抜	選 抜
3回	昭和46年 5月30日	新宮市緑ヶ丘中グランド	選 抜	選 抜
4回	昭和47年 8月20日	橋本市紀ノ川グランド	保 田	保 田
5回	昭和49年 8月25日	川辺町若もの広場	箕 島	宮 崎
6回	昭和51年 8月22日	有田郡金屋町若もの広場	宮 原	保 田
7回	昭和53年 8月27日	海草郡野上町総合運動場	糸 我	港
8回	昭和55年 8月10日	那賀郡貴志川町長山団地	宮 崎	初 島
9回	昭和57年 8月22日	田辺市明洋中グランド	保 田	箕 島
10回	昭和59年 9月 2日	和歌山市水揚跡運動場	港	宮 原
11回	昭和61年 8月 3日	那智勝浦町杵浦グランド	初 島	糸 我
12回	昭和63年 8月 7日	高野町高野山中学校グランド	箕 島	宮 崎
13回	平成 2年 8月 5日	南部町南部中学校グランド	宮 原	保 田
14回	平成 4年 8月 2日	有田市箕島中学校グランド	糸 我	港
15回	平成 6年 7月31日	海南市県立海南高校グランド	宮 崎	初 島
16回	平成 8年 7月28日	県立那賀高等学校グランド	保 田	箕 島
17回	平成10年 7月26日	上富田スポーツセンター	港	宮 原
18回	平成12年 7月30日	和歌山市せせらぎ運動公園	初 島	糸 我
19回	平成14年 7月28日	新宮商業高等学校	箕 島	宮 崎
20回	平成16年 7月25日	橋本市南馬場緑地広場	宮 原	保 田
	平成16年 8月 1日	和歌山市砂の丸広場		
21回	平成18年 7月30日	御坊総合運動公園多目的グランド	糸 我	港
22回	平成20年 7月27日	耐久高等学校グランド	宮 崎	初 島
23回	平成22年 7月25日	紀美野町スポーツ公園	保 田	箕 島
24回	平成24年 8月 5日	紀の川市打田総合スポーツ公園	港	宮 原
25回	平成26年 7月27日	田辺市立大塔中学校	初 島	糸 我
26回	平成28年 7月31日	和歌山市せせらぎ運動公園	箕 島	宮 崎
27回	平成30年 8月 4日	和歌山県消防学校	宮 原	保 田
28回	令和 3年 7月25日	コロナの影響で和歌山県大会中止		
29回	令和 4年 7月31日	和歌山県消防学校	糸 我	出場辞退
30回	令和 6年 7月28日	和歌山県消防学校	宮 崎	初 島

和歌山県消防操法大会 入賞結果

第 5 回大会	宮崎分団	第 2 位入賞	(小型ポンプ操法の部)
第 6 回大会	保田分団	優 勝	(")
第 6 回大会	宮原分団	第 2 位入賞	(ポンプ車操法の部)
第 7 回大会	系我分団	第 3 位入賞	(")
第 9 回大会	箕島分団	第 2 位入賞	(小型ポンプ操法の部)
第 10 回大会	宮原分団	第 2 位入賞	(")
第 10 回大会	港 分団	第 2 位入賞	(ポンプ車操法の部)
第 13 回大会	宮原分団	第 3 位入賞	(")
第 14 回大会	系我分団	優 勝	(")
第 16 回大会	保田分団	第 2 位入賞	(")
第 17 回大会	港 分団	第 2 位入賞	(")
第 18 回大会	初島分団	第 2 位入賞	(")
第 20 回大会	宮原分団	第 2 位入賞	(")
第 20 回大会	保田分団	第 3 位入賞	(小型ポンプ操法の部)
第 21 回大会	港 分団	第 3 位入賞	(")
第 22 回大会	宮崎分団	第 2 位入賞	(ポンプ車操法の部)
第 22 回大会	初島分団	第 3 位入賞	(小型ポンプ操法の部)
第 23 回大会	箕島分団	第 2 位入賞	(")
第 23 回大会	保田分団	第 3 位入賞	(ポンプ車操法の部)
第 24 回大会	宮原分団	優 勝	(小型ポンプ操法の部)
第 25 回大会	初島分団	優 勝	(ポンプ車操法の部)
第 27 回大会	保田分団	第 3 位入賞	(小型ポンプ操法の部)
第 29 回大会	系我分団	優 勝	(ポンプ車操法の部)
第 30 回大会	初島分団	第 3 位入賞	(小型ポンプ操法の部)

9. 消防団の出動状況

(令和6年1月1日～令和6年12月31日)

	火 災 警 戒	風水害等 の 災 害	訓 練 研修等	年 末 警 戒	そ の 他	合 計
出動回数	4	0	37	2	35	78
出動延人数	119	0	930	214	1223	2486

10. 年間活動行事

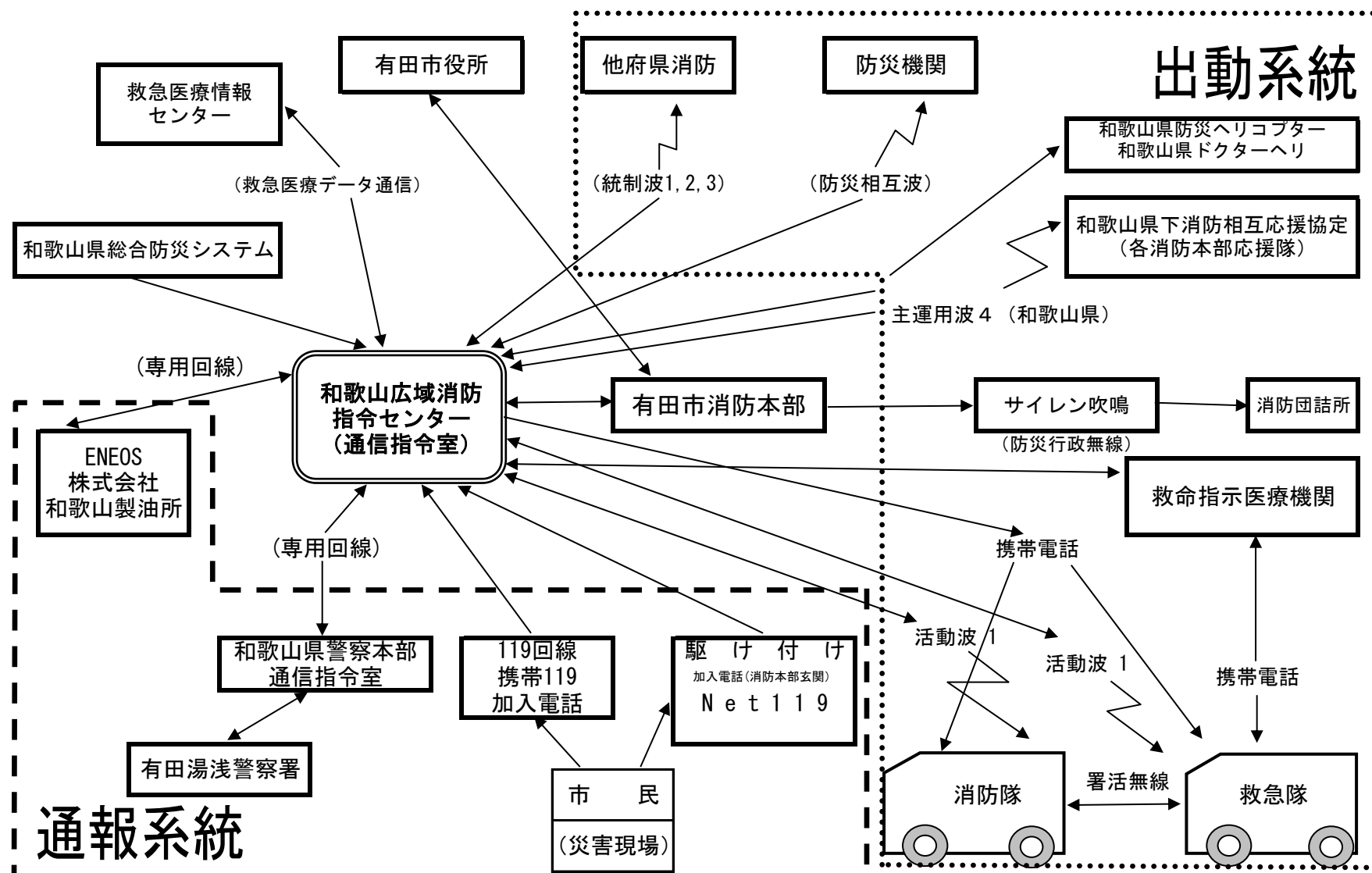
1 月	
2 月	
3 月	消防水利点検・街頭防火啓発 立入検査・機関員訓練・防火パレード
4 月	
5 月	消防操法訓練
6 月	消防操法訓練
7 月	消防操法訓練・消防団普通救命講習
8 月	消防団普通救命講習
9 月	消防水利点検・消防団普通救命講習・有田市水防訓練
1 0 月	自然災害対応教育・指揮幹部科・消防団基礎教育
1 1 月	街頭防火啓発・防火パレード
1 2 月	年末警戒

警防関係

1. 通信系統図	32
2. 消防無線局状況	33
3. 消防車両等	34
4. 消防水利の現況	35～36
5. 消防用資器材の現況	37～38

1. 通信系統図

(令和6年12月31日現在)



2. 消防無線局状況

(令和6年12月31日現在)

種別	呼出名称	実装周波数						出力	備 考
		①	②	③	④	⑤	⑥		
基地局	ありたしょうぼう	○						5W	第1装置（活動波1用）
			○					5W	第2装置（活動波2用）
				○				5W	第3装置（和歌山県主運用波用）
					○			5W	第4装置（統制波1用）
						○		5W	第5装置（統制波2用）
							○	5W	第6装置（統制波3用）
陸 上 移 動 局	ありだポンプ1	○	○	○	○	○	○	10W	消防ポンプ自動車「はやぶさ」
	ありだポンプ2	○	○	○	○	○	○	10W	消防ポンプ自動車「おおわし」
	ありだきゅうきゅう1	○	○	○	○	○	○	10W	救急車「ひまわり」
	ありだきゅうきゅう2	○	○	○	○	○	○	10W	救急車「なでしこ」
	ありだきゅうきゅう3	○	○	○	○	○	○	10W	救急車「さくら」
	ありだきゅうこう1	○	○	○	○	○	○	10W	救助工作車（Ⅱ型）「雷神」
	ありだかがく1	○	○	○	○	○	○	10W	化学消防車「白鳥」
	ありだかがく2	○	○	○	○	○	○	10W	大型化学消防車「明神」
	ありだこうしょ1	○	○	○	○	○	○	10W	大型高所放水車「天神」
	ありだタンク1	○	○	○	○	○	○	10W	泡原液搬送車「水神」
	ありだしき1	○	○	○	○	○	○	10W	指令車（キャラバン）
	ありだはんそう1	○	○	○	○	○	○	10W	資材搬送車
	ありだけいせき1	○	○	○	○	○	○	10W	軽四積載車
	ありだけいせき2	○	○	○	○	○	○	10W	軽四トラック
	ありだこうほう1	○	○	○	○	○	○	10W	広報車（モコ）
	ありだこうほう2	○	○	○	○	○	○	10W	広報車（ノア）
	ありだこうほう3	○	○	○	○	○	○	10W	軽四広報車
	ありだこうほう4	○	○	○	○	○	○	10W	防災学習車
	ありだけいぼう11	○	○	○	○	○	○	2W	携帯型
	ありだけいぼう12	○	○	○	○	○	○	2W	携帯型
	ありだけいぼう13	○	○	○	○	○	○	2W	携帯型
	ありだけいぼう14	○	○	○	○	○	○	2W	携帯型
	ありだきゅうきゅう11	○	○	○	○	○	○	2W	携帯型
	ありだきゅうきゅう12	○	○	○	○	○	○	2W	携帯型
	ありだしき11	○	○	○	○	○	○	2W	携帯型
	ありだほんぶ1	○	○	○	○	○	○	5W	卓上無線

移陸 動 局上	ありた51～53	防災相互波	5W	携帯型（アナログ）
	ありた100	防災相互波	10W	

移陸 動 局上	ありた 101 ありた 115	署活系	1W	携帯型（アナログ）
---------------	--------------------	-----	----	-----------

3. 消防車両等

(令和6年12月31日現在)

配置	車両名等	シャーシ形式等	登録年月	経過年月	ポンプ		備 考
					メーカー名	級別	
本 部 (署)	消防ポンプ自動車 「はやぶさ」	日野2KG-XZU685M	R5. 2	1. 10	モリタ	A-2	CD- I 型
	化学消防車 「白鳥」	三菱KK - FK61HE	H15. 3	21. 09	モリタ	A-2	泡原液 300ℓ 水 槽 1000ℓ
	高規格救急車 「ひまわり」	トヨタ3BF-TRH226S	R4. 2	2. 10			定員 7 人
	軽四積載車	スバルLE-TT2	H20. 3	16. 09			4WD
	軽四広報車 (モコ)	ニッサンDBA-MG22S	H22. 3	14. 09			定員 4 人
	防災学習車	トヨタCBF-TRH226K	H31. 1	5. 11			定員 6 人
	防火号 (ノア)	トヨタDBA-AZR60G改	H18. 1	18. 11			定員 8 人
	軽四広報車	三菱GBD - U61V改	H18. 1	18. 11			定員 4 人
	消防ポンプ自動車 「おおわし」	日野BDG-XZU378M	H20. 2	16. 10	モリタ	A-2	CD- I 型
	小型動力ポンプ	トハツ2WT25E	H20. 3	16. 09	トハツ	B-3	軽四積載車積載
	高規格救急車 「なでしこ」	トヨタCBF-TRH226S	H29. 2	7. 10			定員 7 人
	高規格救急車 「さくら」	トヨタCBF-TRH226S	H24. 2	12. 10			定員 7 人
	大型高所放水車 「天神」	日野2PG - FH1AGA改	H30. 3	6. 09	モリタ	A-1	放水量3000ℓ/分 25メートル級ハコ
	大型化学消防車 「明神」	ニッサンKL-CK53XLH改	H14. 1	22. 11	モリタ	A-1	放水量3100ℓ/分 泡原液槽2000ℓ
	泡原液搬送車 「水神」	ニッサンKL-PK252LZ改	H14. 1	22. 11	モリタ		泡原液槽4000ℓ
	救助工作車 (Ⅱ 型) 「雷神」	イスゞ KK-FRR33D4V	H16. 1	20. 11			Ⅱ 型
	資材搬送車	三菱2PG-FEB80	R2. 2	4. 10			ユニック付 (2. 9トン)
	広報車 (キャラバン)	ニッサンCBF-CSGE25	H23. 2	13. 10			定員 9 人
	軽四トラック	三菱GBD-U62T	H24. 1	12. 11			定員 2 人
	小型動力ポンプ	トハツVF53AS	H31. 2	5. 10	トハツ	B-3	原液搬送車積載

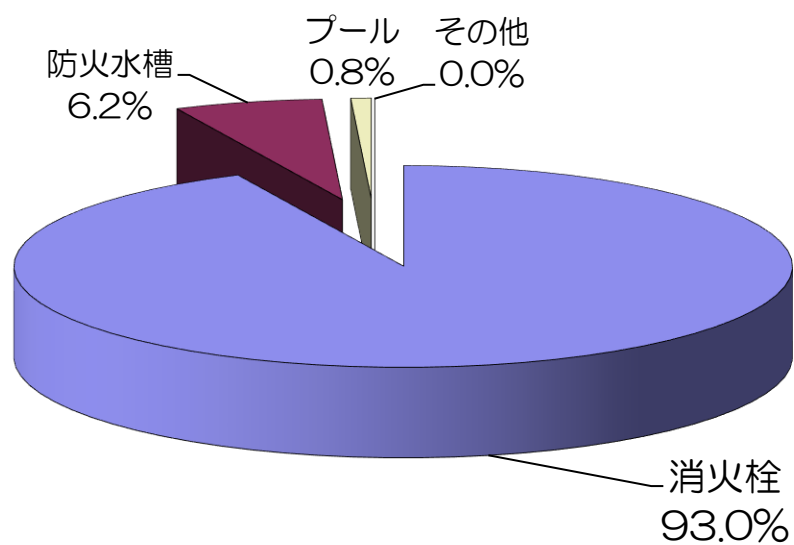
4. 消防水利の現況

(1) 現有消防水利

(令和6年12月31日現在)

水利別 地区別	消火栓	防火水槽	プール	その他	計
初 島	163	11	2		176
港	126	6	1		133
箕 島	117	7	2		126
宮 崎	170	8	2		180
保 田	251	15	1		267
糸 我	93	8	1		102
宮 原	183	18	1		202
計	1,103	73	10		1,186

現有消防水利

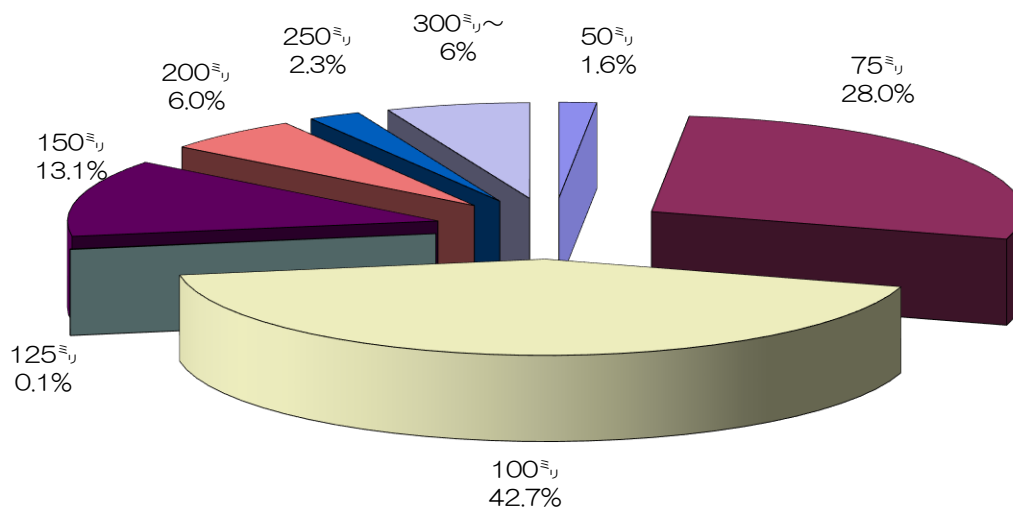


(2) 公設消火栓の配管別数量表

(令和6年12月31日現在)

配管 地区別	50	75	100	125	150	200	250	300以上	計
初 島	2	26	95		24	16			163
港	5	17	76		24			4	126
箕 島	1	12	37	1	27	14	1	24	117
宮 崎	2	35	58		29	23	22	1	170
保 田	1	90	101		22	4	2	31	251
糸 我	2	59	21		11				93
宮 原	5	70	83		7	9		9	183
計	18	309	471	1	144	66	25	69	1,103

配管別数量表



5. 消防用資器材の現況

(令和6年12月31日現在)

資 器 材 名		所持数
救 助 器 具	(一般用救助器具)	
	かぎ付はしご	1
	三連はしご	2
	金属製折りたたみはしご又はワイヤはしご	1
	空気式救助マット	1
	救命索発射銃	1
	サバイバースリング又は救助用縛帯	13
	平坦架	1
	ハーフスケツトストレッチャー	1
	(重量物排除用器具)	
	カナテコバール	1
	ジャッキ	1
	可搬ウィンチ	2
	マンホール救助器具	1
	マット型空気ジャッキ	1
	スプレッダー	1
	(切断用器具)	
	エンジンカッター	1
	酸素切断機	1
	チェーンソー	1
器	鉄線カッター	7
	空気鋸	1
	カッター	1
	レシプロソー	1
	(破壊用器具)	
	万能斧	7
	携帯用コンクリート破壊器具	2
	ハンマー	2
	ハンマドリル	1
具	(検知・測定用器具)	
	複合型ガス検知器	3
	有毒ガス測定器	1
	熱画像直視装置	1
	(呼吸保護用器具)	
	空気呼吸器	15
	簡易呼吸器	3
	防塵マスク	36
	送排風機	2
	(隊員保護用器具)	
	耐電手袋	6
	耐電衣	2
	耐電ズボン	2
	耐電長靴	2

資 器 材 名		所持数
救 助 器 具	(隊員保護用器具)	
	防毒マスク	5
	耐熱服	6
	防塵メガネ	36
	チェーンソー保護具	2
	(水難救助用器具)	
	潜水器具	7
	救命胴衣	16
	救命浮環	2
	浮標	1
	救命ボート	2
	船外機	1
	(山岳救助用器具)	
	バスケット型担架	1
	バスケットストレッチャー (タイタン)	1
	(その他の救助用器具)	
	投光器	6
	携帯投光器	11
	携帯拡声器	6
	携帯無線機	10
	応急処置用セット	3
	緩降機	1
	発電機	4

資 器 材 名		所持数
用ナコン 放水トビ 器具	多管式噴霧放水砲1,100ℓ/分	※4
	可搬式泡放水砲3,000ℓ/分	※2

※はENEOS(株)和歌山製造所に配備

資 器 材 名		所持数
そ の 他	エアーテント	2
	空気圧縮機 (コンプレッサー)	1
	煙体験セット	1

予防関係

1. 防火対象物数及び防火管理者選任状況	39
2. 中高層建築物用途別棟数	40
3. 各種申請届出事務処理状況	41
4. 建築同意処理状況	42

1. 防火対象物数及び防火管理者選任状況

(令和 6年 12月 31日 現在)

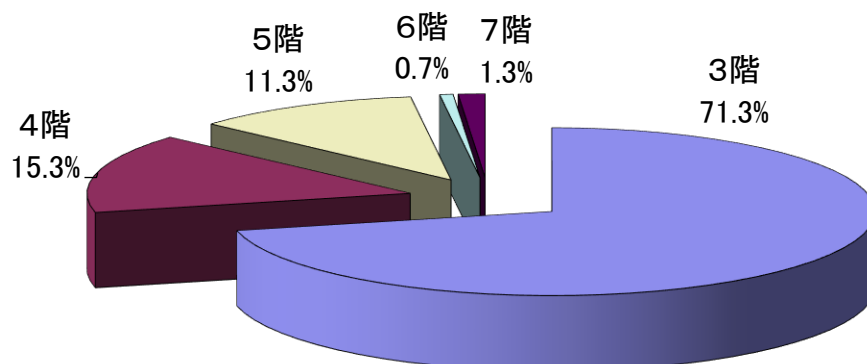
防 火 対 象 物 の 区 分			防火対 象物数	防火管理 者必要数	うち防火管理 者選任届出済
①	イ	劇場・映画館・観覧場	2	2	2
	ロ	公会堂・集会場	25	25	25
②	イ	キャバレー・カフェー・ナイトクラブ類			
	ロ	遊技場・ダンスホール			
	ハ	風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律その他これに類するものとして総務省令で定めるもの			
	ニ	カラオケボックス等（個室）			
③	イ	待合・料理店			
	ロ	飲食店	13	9	9
④		百貨店・マーケット・その他の物品販売業を営む店舗又は展示場	47	26	25
⑤	イ	旅館・ホテル・宿泊所	18	10	10
	ロ	寄宿舎・下宿・共同住宅	209	8	8
⑥	イ	病院・診療所・助産所	35	5	5
	ロ	老人短期入所施設・養護老人ホーム等	12	12	12
	ハ	保育所・老人デイサービス等	18	12	12
	ニ	幼稚園・特別支援学校	3	3	3
⑦		小学校・中学校・高等学校・大学・各種学校	33	22	22
⑧		図書館・博物館・美術館の類			
⑨	イ	公衆浴場のうち蒸気浴場・熱気浴場等			
	ロ	公衆浴場のうち（イ）以外のもの			
⑩		車両の停車場・船舶・航空機の発着場			
⑪		神社・寺院・教会の類	16	6	6
⑫	イ	工場・作業場	230	15	15
	ロ	映画スタジオ・テレビスタジオ			
⑬	イ	自動車車庫・駐車場	36	0	0
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫			
⑭		倉庫	211	0	0
⑮		前各項に該当しない事業所	82	33	31
⑯	イ	特定部分を含む複合用途防火対象物	42	24	24
	ロ	上記以外の複合用途のもの	11	2	2
⑯の2		地下街			
⑯の3		建築物の地階で連続して地下道に面して設けられたものと当該地下道とを合わせたもの			
⑰		重要文化財・重要民族資料	3	0	0
⑱		延長50m以上のアーケード			
⑲		市町村長の指定する山林			
⑳		総務省令で定める舟車			
合 計			1046	214	211

2. 中高層建築物用途別棟数

(令和 6年 12月 31日 現在)

用途別			階数						合 計
			3 階	4 階	5 階	6 階	7 階	8 階	
1 項	イ	劇場	1						1
	ロ	集会場							
3 項	ロ	飲食店	1						1
4 項		物販店	1	1	1				3
5 項	イ	旅館	3	2	1				6
	ロ	共同住宅	18	5	3				26
6 項	イ	病院	3		2				5
	ロ	養護施設		1					1
	ハ	デイサービス	2				1		3
7 項		学校	11	1	1				13
1 2 項	イ	工場	16	5	1				22
1 4 項		倉庫	13	1					14
1 5 項		その他	22	4	2	1	1		30
1 6 項	イ	特定	12	2	5				19
	ロ	非特定	4	1	1				6
合 計			107	23	17	1	2		150

中高層建築物用途別棟数



3. 各種申請届出事務処理状況

(令和 6年中)

申 請 届 出 の 区 分	受 付 件 数
消 防 計 画 の 届 出	53
消 防 用 設 備 着 工 届	20
消 防 用 設 備 設 置 届	58
防 火 対 象 物 使 用 開 始 届	14
防 火 ・ 防 災 管 理 者 選 任 (解 任) 届	45
消 防 用 設 備 等 点 検 結 果 報 告	244
防 火 対 象 物 点 検 結 果 報 告	30
少 量 危 険 物 貯 蔵 取 扱 (廃 止 ・ 変 更) 届 出	1
指 定 可 燃 物 貯 蔵 取 扱 届 出	3
炉 ・ か ま ど ・ ボ イ ラ ー ・ 乾 燥 設 備 の 設 置 届	2
圧縮アセチレンガス・液化石油ガスの貯蔵又は取扱いの開始（廃止）届出	5
煙 火 の 打 ち 上 げ ・ 仕 掛 の 届 出	7
発電設備・変電設備・蓄電池設備設置届出	15
水 素 ガ ス を 充 填 す る 気 球 の 届 出	0
罹 災 証 明 申 請	4
裸 火 使 用 届 出	0
火災とまぎらわしい煙又は火災の発生する恐れのある行為の届出	18
露 店 の 開 設 届 出	55
催 物 開 催 届 出	0
給 湯 湯 沸 設 備 ・ サ ウ ナ 設 備 の 届 出	0
火 薬 類 取 締 法 関 係 申 請 ・ 届 出	4
高 圧 ガ ス 保 安 法 関 係 申 請 ・ 届 出	17
液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律関係 申請・届出	37
合 計	632

4. 建築同意処理状況

(令和 6年中)

月別 区分		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
確 認 申 請		23	1	1	3	5	1	0	3	1	0	5	0	3
内 訳	新 築	23	1	1	3	5	1	0	3	1	0	5	0	3
	増 築													
	改 築													
	その他													
計 画 通 知														
許 可 申 請														
計		23	1	1	3	5	1	0	3	1	0	5		3

危険物関係

1. 製造所等の許可、完成検査、廃止届及び休止届等の状況表	43
2. 製造所等の指定数量別状況表	44
3. 製造所等の類別状況表	45
4. 容量別屋外タンク貯蔵所の数量表	46

1. 製造所等の許可、完成検査、廃止届及び休止届等の状況表

(令和 6 年中)

製造所等の別 区分		合 計	製 造 所	貯 蔵 所								取 扱 所		
				小 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所
許 可	設 置	4		4						4				
	変 更	47	4	35		33		2				8	2	6
完 成 検 査	設 置	5		4						4		1	1	
	変 更	47	4	35		33		2				8	2	6
廃 止 届		38	10	25		22				3		3	1	2
使 用 休 止 届		48		47		47						1	1	
使 用 再 開 届														

2. 製造所等の指定数量別状況表

(令和 6年 12月 31日 現在)

製造所等の別 区分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所								取 扱 所		
			小 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所
施設数	509	23	435	10	292	4	16		106	7	51	26	25
5倍以下	44		38	6	5	1	10		14	2	6	3	3
5倍を超え10倍以下	25		20	3	7	3	3		4		5	1	4
10倍を超え50倍以下	97	1	80	1	63		1		10	5	16	10	6
50倍を超え100倍以下	103	2	96		28		2		66		5	3	2
100倍を超え150倍以下	29		24		15				9		5	5	
150倍を超え200倍以下	25	1	21		20				1		3	2	1
200倍を超え1,000倍以下	68	5	57		55				2		6	2	4
1,000倍を超え5,000倍以下	37	4	28		28						5		5
5,000倍を超え10,000倍以下	24	5	19		19								
10,000倍を超えるもの	57	5	52		52								

3. 製造所等の類別状況表

(令和 6年 12月 31日 現在)

製造所等の別 区 分			合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
					小 計	屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	一 般 取 扱 所
別 類	合 計		509	23	435	10	292	4	16		106	7	51	26	25
	単 独	第 1 類													
		第 2 類	14		13		1				12		1		1
		第 3 類													
		第 4 類	491	22	420	8	291	4	16		94	7	49	26	23
		第 5 類													
		第 6 類													
	混 在		4	1	2	2							1		1

4. 容量別屋外タンク貯蔵所の数量表

(令和 6年 12月 31日 現在)

容量別 単位:KL 類別等	合	第	第	第	第	第	第
	計	1	2	3	4	5	6
		類	類	類	類	類	類
100未満	48				48		
100以上～500未満	109				109		
500以上～1, 000未満	27				27		
1, 000以上～5, 000未満	36		1		35		
5, 000以上～10, 000未満	42				42		
10, 000以上～20, 000未満	17				17		
20, 000以上～30, 000未満	6				6		
30, 000以上～40, 000未満	1				1		
40, 000以上～50, 000未満							
50, 000以上～60, 000未満							
60, 000以上～70, 000未満	4				4		
70, 000以上～80, 000未満							
80, 000以上～90, 000未満							
90, 000以上～100, 000未満							
100, 000以上～110, 000未満	2				2		
110, 000以上～120, 000未満							
120, 000以上							
合 計	292		1		291		

火災統計

1. 過去の主な火災	47
2. 過去5年間の火災統計	48
3. 火災発生状況	48
4. 地域別出火件数と損害額	48
5. 月別火災発生状況	49
6. 曜日別火災発生状況	49
7. 出火時間別火災状況	50
8. 風速別火災状況及び損害額	50
9. 湿度別火災状況及び損害額	51
10. 覚知別出動状況	51
11. 出火原因別件数	51

1. 過去の主な火災

(昭和 53年 9月 8日 以降)

発 生 年月日	地 域	種 別	焼 損 面 積 (m ²) (a)		損 害 額 (千円)	罹 災 世帯数	死者数
昭和 53 年 9 月 8 日	港	建 物	762		25,100		
昭和 54 年 2 月 20 日	保 田	林 野		26	50		1
昭和 54 年 3 月 13 日	港	林 野		700	0		
昭和 54 年 11 月 8 日	港	建 物	1		2		1
昭和 54 年 12 月 9 日	宮 崎	建 物	41		1,350	1	1
昭和 56 年 5 月 10 日	港	林 野		200	0		
昭和 56 年 7 月 16 日	港	建 物	410		75,000		
昭和 57 年 3 月 28 日	宮 原	林 野		67	0		
昭和 58 年 5 月 11 日	宮 原	建 物	1		0		1
昭和 60 年 2 月 2 日	糸 我	その他	1		0		1
昭和 61 年 4 月 28 日	保 田	建 物	55		3,143	1	1
昭和 63 年 4 月 10 日	宮 崎	林 野		198	567		
平成 元 年 4 月 18 日	保 田	建 物	554		24,640	2	
平成 6 年 2 月 14 日	保 田	建 物	21		1,195	1	1
平成 7 年 11 月 18 日	箕 島	建 物	68		11,638	1	1
平成 9 年 3 月 22 日	保 田	爆 発	0		0		2
平成 10 年 2 月 13 日	宮 崎	その他	0		0		1
平成 10 年 8 月 17 日	箕 島	建 物	1,927		58,278	4	
平成 10 年 8 月 22 日	保 田	建 物	3,678		157,952	1	
平成 11 年 2 月 21 日	宮 崎	林 野		500	0		
平成 11 年 11 月 1 日	宮 崎	建 物	3		650	1	1
平成 12 年 3 月 14 日	宮 原	建 物	1		250	1	1
平成 13 年 10 月 24 日	宮 崎	建 物	29		2,785	1	1
平成 14 年 3 月 2 日	宮 原	車 両			75		1
平成 14 年 9 月 12 日	保 田	建 物	197		29,821	2	1
平成 15 年 1 月 7 日	宮 崎	建 物	105		2,951	2	1
平成 16 年 1 月 10 日	保 田	建 物	637		114,028		
平成 18 年 2 月 2 日	初 島	建 物			5		1
平成 19 年 3 月 2 日	保 田	建 物	63		1,976		1
平成 19 年 6 月 15 日	宮 原	建 物	0		0		1
平成 24 年 4 月 16 日	宮 崎	建 物	82		3,674		1
平成 25 年 11 月 28 日	宮 原	建 物	86		2,320	1	1
平成 25 年 12 月 4 日	糸 我	建 物			100		1
平成 29 年 1 月 18 日	初 島	危険物			39,000		
平成 29 年 1 月 22 日	初 島	危険物	800		112,000		
令和 2 年 6 月 24 日	初 島	建 物	554		44,066	3	

注 1. 死者の発生した火災

2. 焼損面積50 a 以上の林野火災

3. 焼損面積500m²以上の建物火災

4. 損害額50,000千円以上の火災

5. 社会的影響の大きい火災

2. 過去5年間の火災統計

区 分 発生年別	件 数					焼 損 面 積		罹 災 世帯数	死傷者		損 害 額 (千 円)
	合 計	建 物	林 野	車 両 その他	焼 損棟 数	建 物 (㎡)	林野 (a)		死	傷	
令和 2 年	5	3		2	7	692.48		5		1	67,451
令和 3 年	6	2	1	3	2	11.00	25	2			3,914
令和 4 年	3	1		2	1	0.558		0			276
令和 5 年	6	4		2	4	270.00		1		1	3,390
令和 6 年	11	5	1	5	6	259.47	4.1	5		3	11,424

3. 火災発生状況

(令和 6年中)

種別	区 分	件 数	焼 損 面 積 (㎡)	損 害 額 (千円)	焼 損 棟 数	罹 災 世 帯 数 ()は人数
建 物		5	259.47	10,464	6	5 (21)
林 野		1	410.00			
車 両		2		630		
そ の 他		3	311.00	330		
合 計		11	980.47	11,424	6	

4. 地域別出火件数と損害額

(令和 6年中)

地域別	件 数					損 害 額 (千円)				
	建 物	林 野	車 両	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	そ の 他	合 計
初 島										
港			1		1			30		30
箕 島	2				2	10,179				10,179
宮 崎	2				2	5				5
保 田			1	3	4			600	330	930
糸 我										
宮 原	1	1			2	280				280
合 計	5	1	2	3	11	10,464		630	330	11,424

5. 月別火災発生状況

(令和 6年中)

月	建 物				林 野			車 両		そ の 他		焼 損 程 度				死傷者数
	件数	棟数	焼 損 面 積 (㎡)	損害額 (千円)	件数	焼 損 面 積 (a)	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	
1																
2																
3	1	3	132.78	4,570								1				
4																
5										1						
6																
7								1	30							
8																
9	2			285											2	1
10																
11																
12	2	3	126.69	5,609	1	4.1		1	600	2	330	1			1	2
合 計	5	6	259.47	10,464	1	4.1		2	630	3	330	2			3	3

※焼損程度については、火元建物の損害状況です。

6. 曜日別火災発生状況

(令和 6年中)

曜 日	日	月	火	水	木	金	土	合 計
件 数	1	2	3	2	1	1	1	11

7. 出火時間別火災状況

(令和 6年中)

区分 時間別	種 別					損 害 額 (千円)	焼 損 面 積	
	建物	林野	車両	その他	計		建 物 (㎡)	林 野 (a)
0～2								
2～4								
4～6								
6～8	1				1	5		
8～10		1			1			4.1
10～12	1				1	280		
12～14				2	2	330		
14～16	1				1			
16～18	1				1	5,609	126.69	
18～20	1		1		2	4,600	132.78	
20～22				1	1			
22～24			1		1	600		
合 計	5	1	2	3	11	11,424	259.47	4.1

8. 風速別火災状況及び損害額

(令和 6年中)

項目 風速(m)	件 数			焼 損 面 積		損 害 額 (千円)			
	建物	林野	車両 その他	建 物 (㎡)	林 野 (a)	建 物	林 野	車 両 その他	計
0									
1	2		2	132.78		4,575		630	5,205
2	1					280			280
3		1	2		4.1			330	330
4	1		1						
5									
6									
7									
8	1			126.69		5,609			5,609
9									
10以上									
合 計	5	1	5	259.47	4.1	10,464		960	11,424

9. 湿度別火災状況及び損害額

(令和 6年中)

項目 湿度(%)	件 数			焼 損 面 積		損 害 額 (千円)			
	建物	林野	車両 その他	建 物 (㎡)	林 野 (a)	建 物	林 野	車 両 その他	計
10未満									
10～19									
20～29									
30～39	1			126.69		5,609			5,609
40～49									
50～59	1	1	3		4.1			330	330
60～69	1		1			280		600	880
70～79									
80～89			1					30	30
90以上	2			132.78		4,575			4,575
合 計	5	1	5	259.47	4.1	10,464		960	11,424

10. 覚知別出動状況

(令和 6年中)

覚知方法	専用電話	加入電話	携帯電話	かけつけ	事後聞知	その他	合 計
件 数	9					2	11

11. 出火原因別件数

(令和 6年中)

区 分	たばこの火	たき火 ゴミの焼却	火 遊 び	放 火 の 疑 い	過 熱 天 ぷ ら 鍋	電 気 器 具	電 気 配 線	ス ト ー ブ	石 油 ・ ガ ス	ガ ス コ ン ロ	溶 接 の 火 花	そ の 他	不 明	合 計
件 数		2		1		3			1		4			11

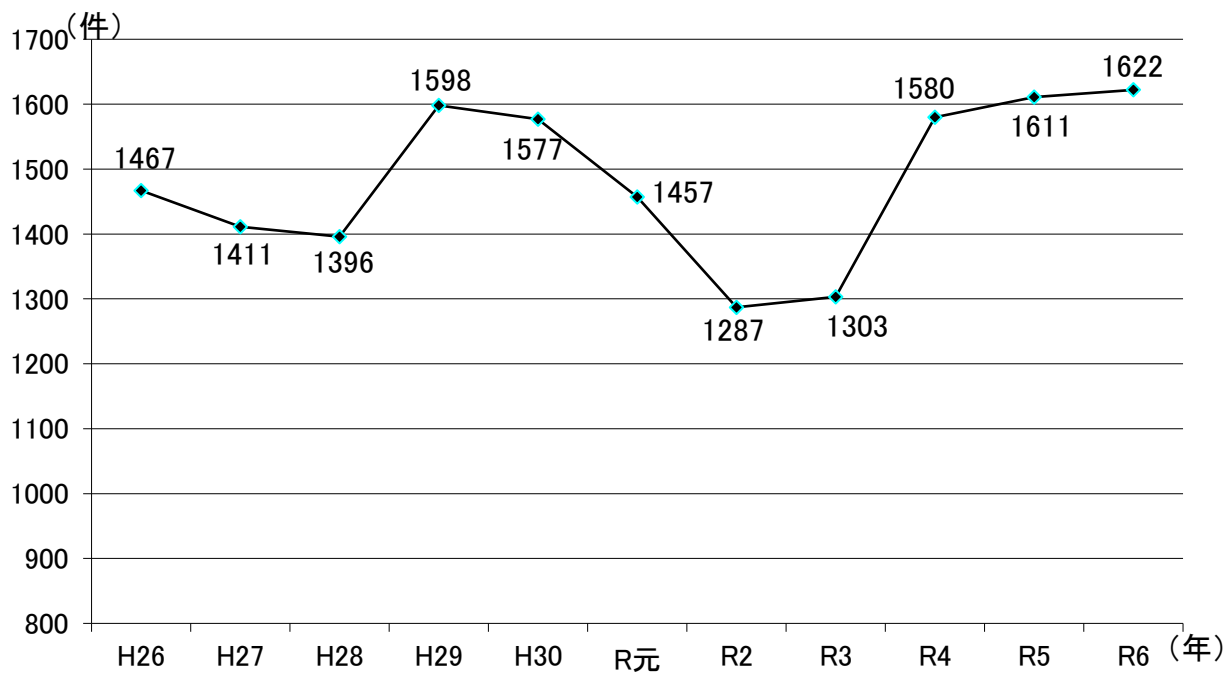
救急救助統計

1. 月別救急状況表	52
2. 救急出動件数の推移	53
3. 地区別出動件数	53
4. 事故種別出動件数	54
5. 現場到着所要時間	54
6. 搬送者の収容所要時間	54
7. 事故種別傷病程度	55
8. 年齢区分別傷病程度	55
9. 覚知別	55
10. 搬送患者住居地状況	56
11. 管内・外搬送人員状況	56
12. 管内医療機関別搬送人員状況	57
13. 転送件数及び転送理由	57
14. ドクターヘリ要請件数	58
15. 救急出動への支援出動件数	58
16. 年別救急講習回数及び参加人数	59
17. 救助活動状況	60
18. 救助人員・出動人員	60

1. 月別救急状況表

事故種別 月別		合 計	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自 損 行為	急 病	そ の 他
1 月	出動件数	142				7			26		2	95	12
	搬送人員	136				4			26		2	93	11
2 月	出動件数	154				10			20			109	15
	搬送人員	145				8			19			103	15
3 月	出動件数	140				2			18		1	102	17
	搬送人員	133				3			17		1	96	16
4 月	出動件数	117				4			22		1	76	14
	搬送人員	109				2			21		1	72	13
5 月	出動件数	136				7	2	1	23		1	89	13
	搬送人員	129				6	2	1	22			87	11
6 月	出動件数	113				7	2	2	15		1	74	12
	搬送人員	105				7	2	2	14			68	12
7 月	出動件数	156				9		1	23	1		104	18
	搬送人員	145				10		1	21	1		96	16
8 月	出動件数	152				8	2	1	25			100	16
	搬送人員	143				8	2	1	23			94	15
9 月	出動件数	132	1		1	9	2	2	17		1	85	14
	搬送人員	130	1		1	10	2	2	17		1	83	13
10 月	出動件数	122				7	2	3	14		1	83	12
	搬送人員	115				7	2	3	14		1	76	12
11 月	出動件数	109				9		1	18	1	1	67	12
	搬送人員	102				8		1	17	1		63	12
12 月	出動件数	149	3			11	2	1	23			91	18
	搬送人員	142	2			12	2	1	21			86	18
合 計	出動件数	1622	4	0	1	90	12	12	244	2	9	1075	173
	搬送人員	1534	3	0	1	85	12	12	232	2	6	1017	164

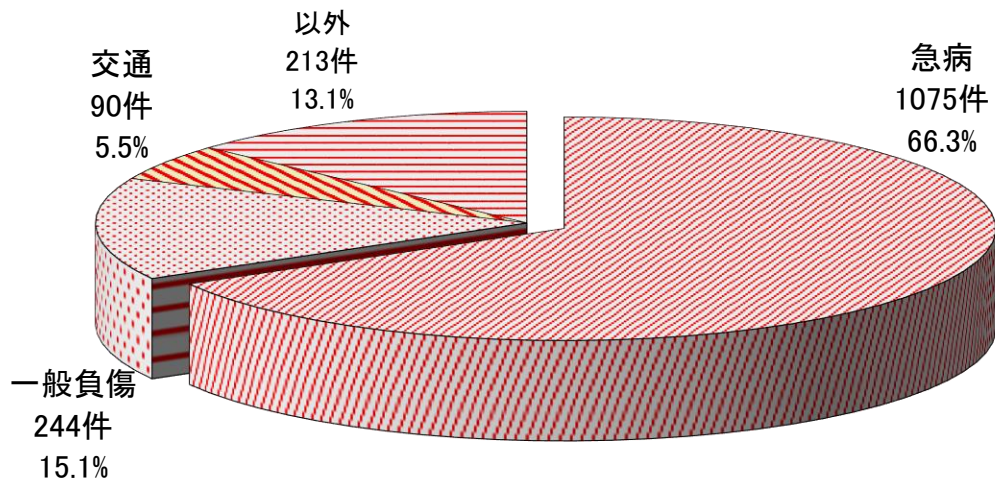
2. 救急出動件数の推移



3. 地区別出動件数

事故種別 地区別	合 計	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自損 行為	急 病	そ の 他
初島地区	154				12	1	4	29			105	3
港 地区	135				4			19			111	1
箕島地区	251	2			19	1	4	37	1	2	155	30
宮崎地区	439	2		1	17	2	2	56		2	230	127
保田地区	318				18	4		54	1	2	237	2
系我地区	83				11	1		13			55	3
宮原地区	235				8	3	2	36		3	176	7
その他 (応援要請等)	7				1						6	
合 計	1622	4	0	1	90	12	12	244	2	9	1075	173

4. 事故種別出動件数



5. 現場到着所要時間 平均7分28秒

時 間 事故種別	覚知から現場到着までの所要時間					計 (件)
	3 分 未 満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20 分 以 上	
急 病	12	63	777	222	1	1,075
交 通		13	65	12	0	90
一般負傷	1	18	178	46	1	244
上記以外	4	99	95	13	2	213
計	17	193	1115	293	4	1622

6. 搬送者の収容所要時間 平均46分21秒

時 間 事故種別	覚知から医療機関収容までの所要時間						計 (人)
	10分 未 満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以 上	
急 病		8	155	579	272	3	1017
交 通			4	55	25	1	85
一般負傷		5	27	126	73	1	232
上記以外		5	11	168	16		200
計	0	18	197	928	386	5	1534

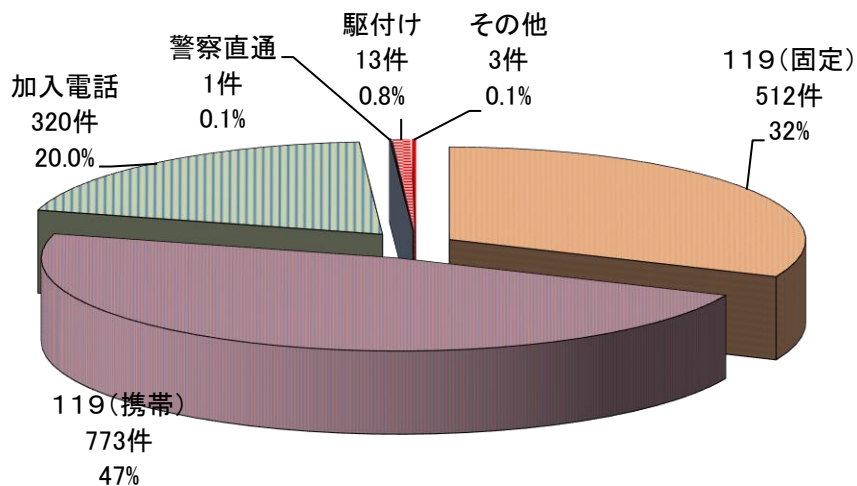
7. 事故種別傷病程度

事故種別 傷病程度	火 災	自然 災害	水 難	交 通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加 害	自損 行為	急 病	その他	計
死 亡			1	4			8		3	34	2	52
重 症	1			5		1	41			101	42	191
中 等 症	1			12	3	2	64			369	105	556
軽 症	1			64	9	9	119	2	3	513	15	735
計	3	0	1	85	12	12	232	2	6	1017	164	1534

8. 年齢区分別傷病程度

年齢区分 傷病程度	新生 児	乳 幼児	少 年	成 人	高 齢者	計
死 亡				5	47	52
重 症			2	28	161	191
中 等 症		10	9	81	456	556
軽 症		43	44	227	421	735
計	0	53	55	341	1085	1534

9. 覚知別



10. 搬送患者住居地状況

月別	地区別 男女別	管 内		管 外		計
		男	女	男	女	
1	月	55	67	5	9	136
2	月	65	67	7	6	145
3	月	63	60	7	3	133
4	月	50	41	11	7	109
5	月	64	52	9	4	129
6	月	46	52	5	2	105
7	月	77	53	12	3	145
8	月	62	65	8	8	143
9	月	62	55	9	4	130
10	月	53	46	7	9	115
11	月	52	42	6	2	102
12	月	64	60	6	12	142
計		713	660	92	69	1534

11. 管内・外搬送人員状況

	搬送人員	割合
有 田 市（管内）	548	35.7%
有 田 郡（管外）	145	9.5%
海南・海草郡（管外）	129	8.4%
和 歌 山 市（管外）	661	43.1%
御坊・日高郡（管外）	51	3.3%
そ の 他（管外）	0	0.0%
計	1534	100%

12.管内医療機関別搬送人員状況

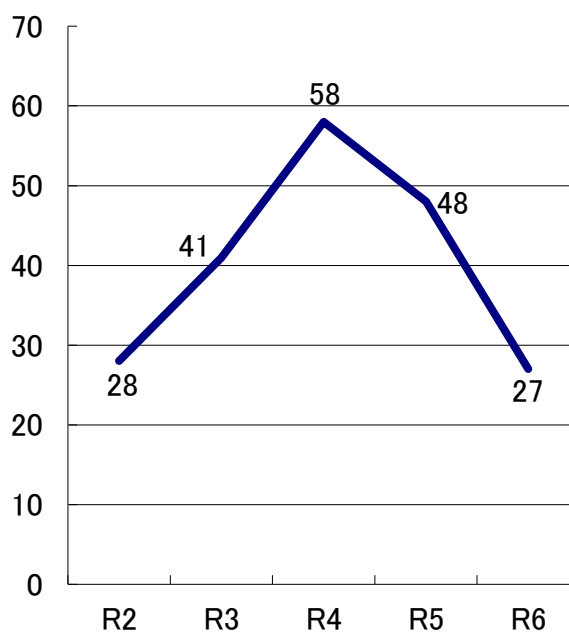
医 療 機 関 名	搬 送 人 員	医 療 機 関 名	搬 送 人 員
有田市立病院	484	なかもと整形外科	1
桜ヶ丘病院	60	共立ハートクリニック	1
九鬼クリニック耳鼻咽喉科	1	山下内科胃腸科	1
		計	548

13.転送件数及び転送理由

理由 事故種別	ベ ッ ド 満 床	専 門 外	医 師 不 在	手 術 中	入 院 施 設 な し	処 置 困 難	理 由 不 明	そ の 他	計
急 病									0
交 通									0
一 般 負 傷						1			1
そ の 他									0
計	0	0	0	0	0	1	0	0	1

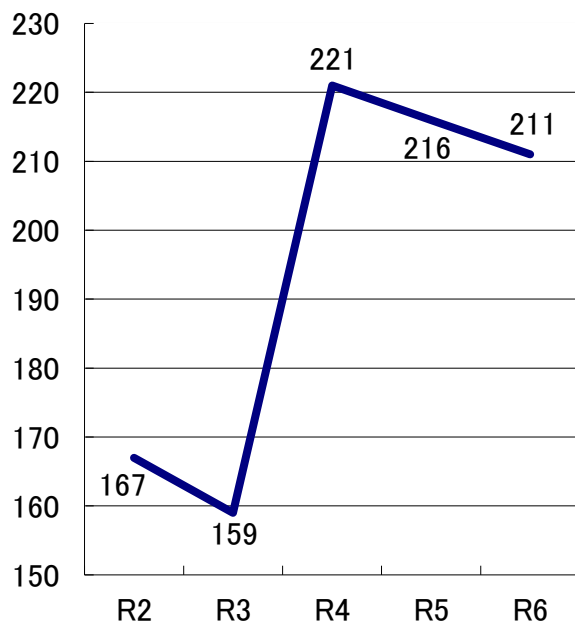
14.ドクターヘリ要請件数

	R2	R3	R4	R5	R6
火 災	1			1	1
自然災害					
水 難					
交通事故	2	1	3	3	3
労働災害	1	3	3	1	
運動競技					
一般負傷	2	3	4	4	2
加 害					
自損行為		2			1
急 病	20	31	45	37	17
他(転院等)	2	1	3	2	3
計	28	41	58	48	27



15.救急出動への支援出動件数

	R2	R3	R4	R5	R6
火 災	1			1	2
自然災害					
水 難		1		2	1
交通事故	18	19	38	19	39
労働災害	3	6	3	9	1
運動競技					
一般負傷	18	16	18	17	25
加 害	2				
自損行為	3	8	4	4	8
急 病	117	104	153	162	131
他(転院等)	5	5	5	2	4
計	167	159	221	216	211



※ この統計は、救急隊のみでは現場活動に時間を要する事案や、ドクターヘリ離発着等の安全管理を要する事案に、ポンプ車等で支援出動した件数。

16. 年別救急講習回数及び参加人数

救急講習回数

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
普通救命講習Ⅰ	20	12	17	26	16
普通救命講習Ⅱ		1			
普通救命講習Ⅲ			1	1	1
上級救命講習	1	1		1	1
救急講習	7	15	30	26	19
計	28	29	48	54	37

救急講習人員

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
普通救命講習Ⅰ	317	190	277	490	355
普通救命講習Ⅱ		6			
普通救命講習Ⅲ			11	14	13
上級救命講習	6	6		7	6
救急講習	145	385	626	824	632
計	468	587	914	1335	1006

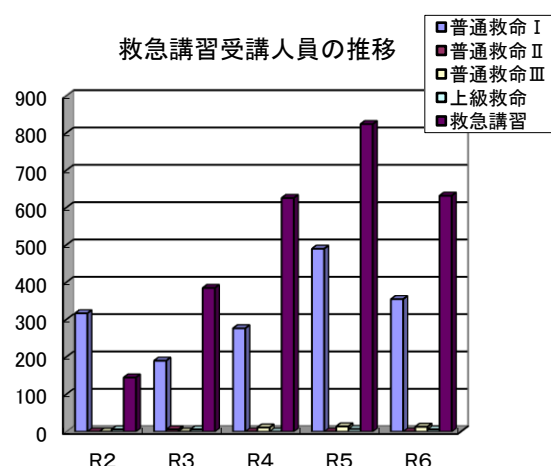
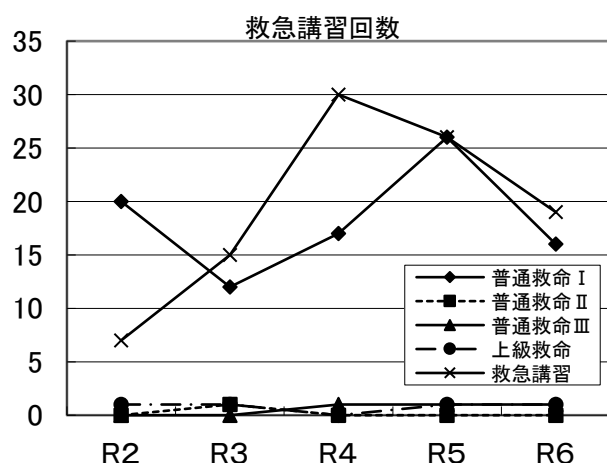
普通救命講習Ⅰ…【3時間】成人に対する心肺蘇生法・AEDの使用方法・その他の処置を学ぶ講習会

普通救命講習Ⅱ…【4時間】普通救命講習Ⅰの内容に加え、実技・筆記試験が追加された講習会

普通救命講習Ⅲ…【3時間】小児・乳児に対する心肺蘇生法・AEDの使用方法・その他の処置を学ぶ講習会

上級救命講習…【8時間】普通救命講習Ⅱの内容に加え、小児・乳児に対する心肺蘇生法・傷病者管理法・外傷の手当・搬送法等が追加された講習会

救急講習…【3時間未満】上記以外で必要に応じて行なう講習会



17.救助活動状況

区 分	救 助 事 故 種 別									計
	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害 事 故	機 械 等 に よ る 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス 及 び 酸 欠 事 故	爆 発 事 故	そ の 他	
出 動 件 数		4	1						1	6
活 動 件 数		1							1	2
救 助 人 員		1							1	2

18.救助人員・出動人員

事故種別	火 災	火 災 以 外 の 救 助 事 故 種 別										合 計	
		交 通 事 故	水 難 事 故	事 故 自 然 災 害	よ る 事 故	機 械 等 に	よ る 事 故	建 物 等 に	酸 欠 事 故	ガ ス 及 び	爆 発 事 故		そ の 他
出 動 件 数		4	1								1	6	6
救 助 人 員		1									1	2	2
出 動 人 員		36	5								9	50	50
活 動 人 員		10									9	19	19
出 動 車 両 台 数		15	3								3	21	21



有田みかんマスコット「あり太君」

〒649-0304

和歌山県有田市箕島47番地

有田市消防本部・有田市消防署

TEL: (0737) 83-0119

FAX: (0737) 82-2513

E-mail: shobo@city.arida.lg.jp】